

練馬区次世代育成支援行動計画策定に係る ニーズ調査報告書

<概要版>

目 次

I	調査の目的	1
II	調査の構成	1
III	練馬区の少子化状況の概要調査	1
IV	サービス利用者等のニーズ調査	9
IV-1	就学前・小学校児童家庭の調査結果	9
IV-2	中学生、高校生の調査結果	25
IV-3	独身および子どものいない世帯、子育て中および子育て終了世帯の調査結果	34
IV-4	子育て施設従事者の調査結果	40
IV-5	子育て意識の変遷と子育てに関する意識の比較	44

平成21年3月

練馬区

I 調査の目的

練馬区では、平成 15 年 7 月に制定された「次世代育成支援対策推進法」に基づき、平成 17 年 3 月に平成 17 年度から 10 年間の集中的・計画的な取組を促進するため、「練馬区次世代育成支援行動計画」の前期計画（平成 17 年度～21 年度）を策定し、推進している。

平成 21 年度には平成 22 年度から 5 年間の後期行動計画を策定することとなっている。

子どもと家庭を取り巻く現状や子育て支援に関する本ニーズ調査は、後期行動計画策定の基礎資料とするために実施したものである。

II 調査の構成

この基礎調査報告書は、次の 2 つから構成されている。

- 練馬区の少子化状況の概要調査
- サービス利用者等のニーズ調査

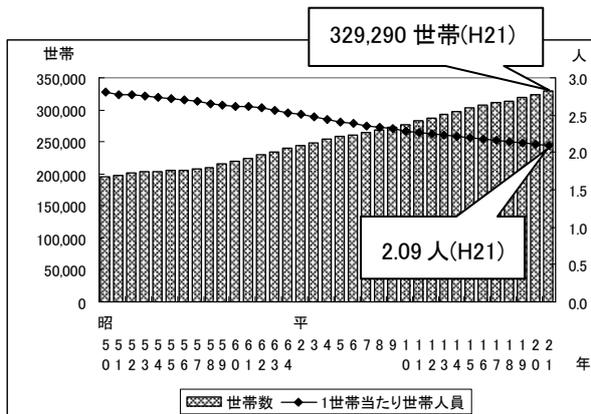
III 練馬区の少子化状況の概要調査

1. 少子化の現状

(1) 人口と世帯について

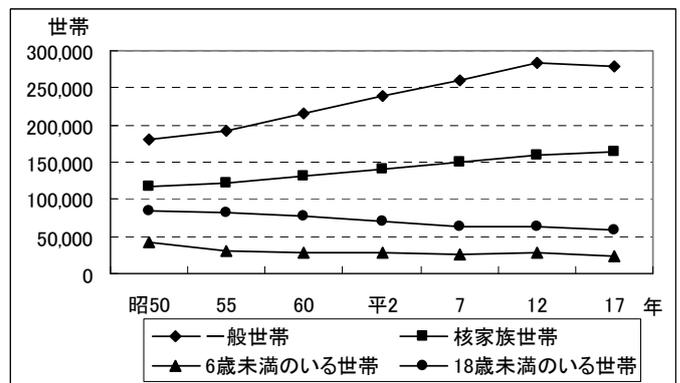
人口と世帯数は、昭和 50 年以降ほぼ一貫して増加している。一方、1 世帯あたり世帯人員はここ数年下げ止まってきているものの、ほぼ一貫して減少している。背景としては、核家族化が一層進んでいることが挙げられる。

世帯および世帯人員の推移



(住民基本台帳、各年 1 月 1 日現在)

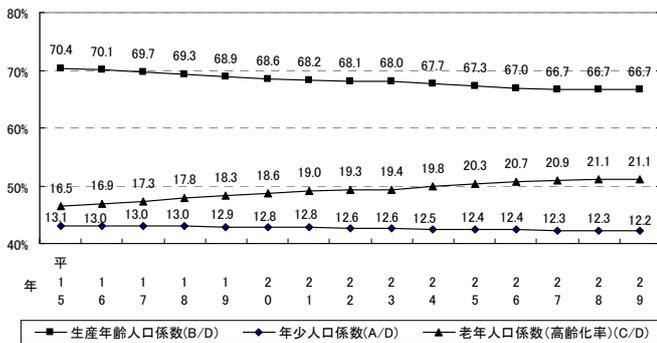
6 歳未満・18 歳未満の親族のいる世帯等の推移



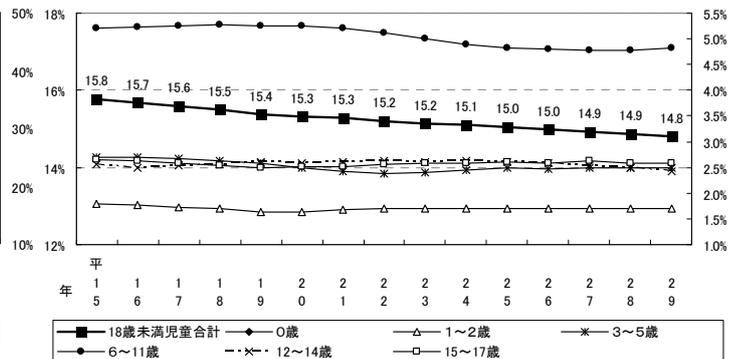
(国勢調査、各年 10 月 1 日現在)

平成 20 年と平成 21 年の人口を使用したコーホート変化率法による推計人口では、0～14 歳の年少人口については、今後ゆるやかに増加する。このうち、0 歳、1～2 歳、3～5 歳は増加、6～11 歳、12～14 歳は減少するものと見込んでいる。
18 歳未満合計についてもやや増加するものと見込んでいるものの、総人口に占める割合は減少していくものと見込んでいる。

年少人口、年齢人口、老年人口の割合の推移



区人口に占める 18 歳未満児童の割合の推移

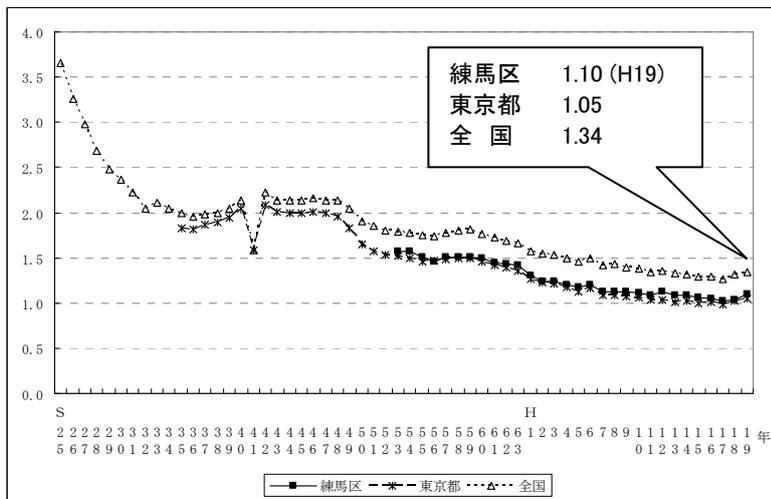


(平成 15～21 年 4 月 1 日現在、住民基本台帳および外国人登録原票、平成 22 年以降はコーホート変化率法に基づ推計値)
(注) 年少人口係数…0 歳～14 歳人口割合、生産年齢人口係数…15 歳～64 歳人口割合、老年人口係数…65 歳以上人口割合

(2) 出生について

1 人の女子が一生の間に生む子ども数に相当する合計特殊出生率は、緩やかな低下傾向を続けている。平成 17 年には過去最低の 1.02 となったが、平成 18 年 1.04、平成 19 年 1.10 と上昇している。東京都や国と比較すると、東京都よりやや高く、全国より低い。

練馬区・東京都・全国の合計特殊出生率の推移



【合計特殊出生率】15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女子が一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

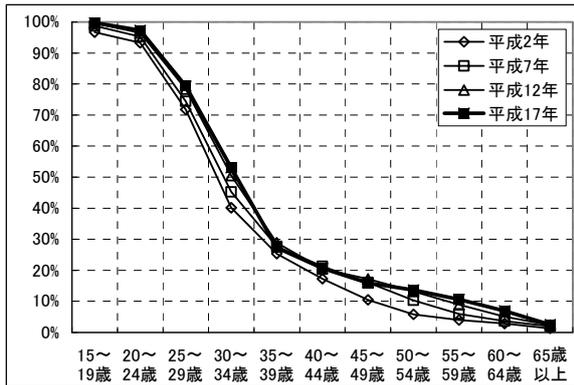
(「東京都衛生年報」(平成 15 年以前)
「人口動態統計」(平成 16 年以降)
厚生労働省「人口動態統計」)

(3) 婚姻の状況について

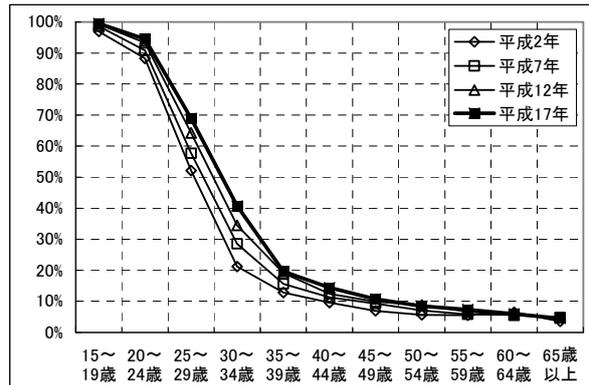
婚姻の状況に関して、未婚率は男女、各年齢階級とも上昇する傾向にある。平成17年を見ると、男性では25～29歳は79.3%、30～34歳は53.0%、35～39歳は27.3%、40～44歳の20.7%が未婚であった。女性では25～29歳は68.9%、30～34歳は40.7%、35～39歳は19.6%、40～44歳の14.4%が未婚であった。

未婚率の推移

男性



女性



(国勢調査、各年10月1日現在)

2. 職業と家庭の両立

(1) 労働力率

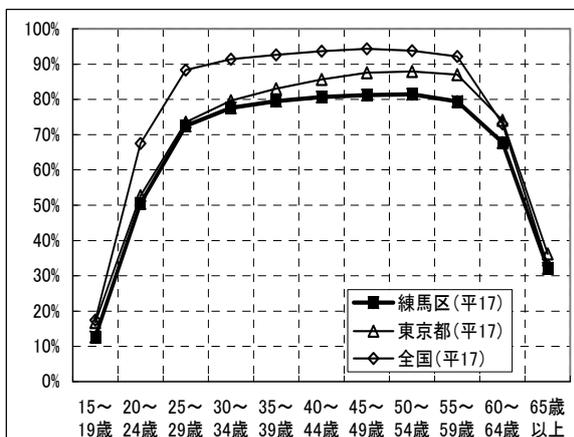
男性については、各年齢階級とも、全国・東京都より低くなっている。

女性の労働力率を年齢階級別に比較すると、20歳代で高く、その後子育てに関わる30歳代で一旦大きく低下し、子どもが小学校高学年以降となる40歳以降で再び上昇、55歳以降で低下するいわゆる「M字曲線」を描いている。

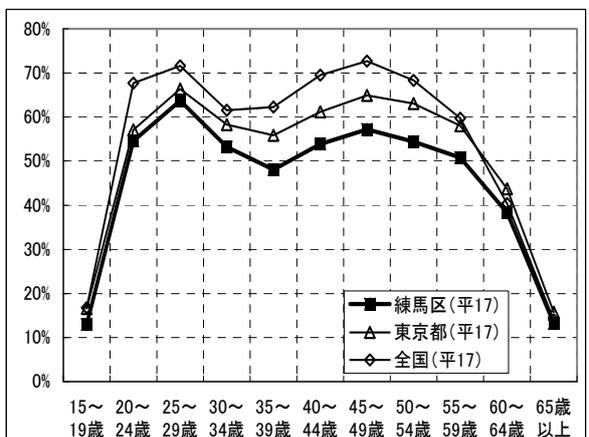
全国・東京都と比べると、30歳以降の労働力率が低く、出産で離職しそのまま職に就かない女性の割合が高い。

労働力率の比較

男性



女性



(2) 女性の職業の傾向

職業別の就業者数に占める女性の数は、事務従事者、サービス職業従事者の2つが6割前後と高い。なお、専門的・技術的職業従事者と管理的職業従事者の割合がわずかではあるが、増加している。

職業別の女性の15歳以上就業者数と総就業者数に占める割合

職業	平成7年			平成12年			平成17年		
	総就業者数(人)	女性		総就業者数(人)	女性		総就業者数(人)	女性	
		総数(人)	割合(%)		総数(人)	割合(%)		総数(人)	割合(%)
総数	330,557	124,885	37.8	324,075	127,026	39.2	274,192	111,966	40.8
専門的・技術的職業従事者	54,590	20,447	37.5	57,788	22,214	38.4	49,030	20,069	40.9
管理的職業従事者	18,453	1,770	9.6	11,617	1,306	11.2	8,769	1,049	12.0
事務従事者	79,783	49,221	61.7	78,149	48,396	61.9	70,053	42,410	60.5
販売従事者	60,657	19,556	32.2	59,892	18,480	30.9	47,434	14,998	31.6
サービス職業従事者	27,096	15,231	56.2	30,003	17,155	57.2	26,924	16,487	61.2
保安職業従事者	5,440	412	7.6	5,666	438	7.7	4,958	354	7.1
農林漁業作業員	1,819	591	32.5	1,570	512	32.6	1,428	471	33.0
運輸・通信従事者	11,585	678	5.9	11,025	501	4.5	8,299	348	4.2
生産工程・労務作業員	65,933	14,707	22.3	60,361	14,530	24.1	48,268	12,036	24.9
分類不能の職業	5,201	2,272	43.7	8,004	3,494	43.7	9,029	3,744	41.5

(国勢調査、各年10月1日現在)

3. 保育サービスおよびその他の子育て支援サービス

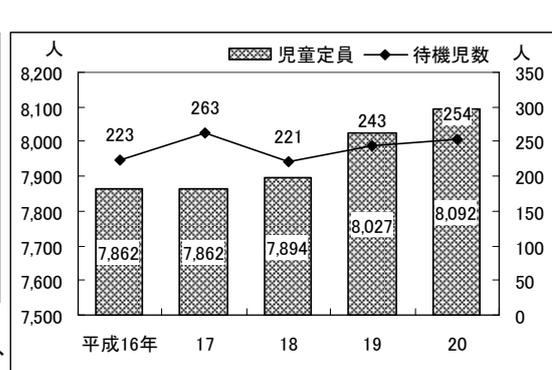
(1) 認可保育園等の状況

認可保育園の平成20年度の定員数は、平成16年度に比べ230人増加しているが、一方で、待機児数が依然として254人おり、待機はまだ解消されない状況にある。このほか、多様な保育のニーズに応えるため、さまざま形態の保育サービスを実施している。

保育園、認証保育所、保育室、家庭福祉員、駅型グループ保育室の定員数と待機児の推移

年	保育園	認証保育所	保育室	家庭福祉員	駅型グループ保育室	合計
平成16	7,862	183	289	137	75	8,546
17	7,862	350	289	133	75	8,709
18	7,894	515	265	133	66	8,873
19	8,027	573	187	131	66	8,984
20	8,092	623	169	121	63	9,068

(「練馬区勢概要」(平成16~20年版)、「練馬区統計書」(平成20年版)、平成20年4月1日現在)



休日保育、一時保育、病後児保育、地域交流事業の実施状況

年度	休日保育	一時保育	病後児保育	地域交流事業
平成 15	—	2,021	50	15,716
16	—	1,954	40	16,083
17	—	1,616	658	18,167
18	286	2,039	1,480	18,819
19	478	3,906	2,463	14,579

(「練馬区勢概要」(平成 16~20 年版)、延べ人数)

(2) 一時預かり型保育サービス等の状況

ショートステイ(宿泊型の一時保育)、トワイライトステイ(夜間一時保育)は、平成 19 年度は利用がやや下がったものの延べ日数は平成 15 年度以降大幅に増加しており、需要の高さが伺える。緊急一時保育は、年度によって利用のばらつきが見られる。

年度	ショートステイ(宿泊型の一時保育)	トワイライトステイ(夜間一時保育)	短期特例保育(緊急一時保育)	乳幼児一時預かり事業
平成 15	342	824	87	—
16	670	792	117	—
17	1,062	1,063	122	740
18	1,081	1,851	115	2,199
19	903	1,741	97	2,663

(「ねりまの福祉」(平成 20 年版)、延べ日数)

(3) 学童クラブ、児童館の状況

学童クラブについては、留守家庭児童数の増加に伴い、入会児童数も増加していることから、入会率はこのところ7割強と横ばいの状況が続いている。このほか、区内には、17 館の児童館と厚生文化会館児童室、また、児童が利用できる施設として、地区区民館が 22 か所あり、幼児や小・中学生の室内での遊び場となっている。

学童クラブの入会児童数、児童館等の利用状況の推移

年度	学童クラブの入会児童数の推移				児童館等の利用状況		
	クラブ数(か所)	留守家庭児童数(人)	入会児童数(人)	入会率(%)	児童館	厚生文化会館(児童室)	地区区民館(学童クラブ室)
平成 15	87	4,903	3,430	70.0	632,838	27,191	139,639
16	87	4,932	3,550	72.0	635,750	27,834	138,608
17	87	5,070	3,610	71.2	655,910	22,466	151,777
18	89	5,220	3,719	71.2	641,322	23,054	153,151
19	90	5,309	3,722	70.1	643,435	22,213	150,350

(「練馬区統計書」(平成 16~20 年版)、「ねりまの福祉」(平成 20 年版))

(4) 子育て在宅家庭支援の状況

ファミリーサポート(育児支えあい)事業は、サービスの利用者数は増加しているが、一方で、援助者数、延べ利用件数が伸び悩んでいる。
 子育てのひろば(びよびよ)、民設子育てのひろば、学童クラブ活用型子育て支援事業(にこにこ)は、利用人数が大きく伸びている。

ファミリーサポート(育児支えあい)事業の利用状況

年度	利用者数	援助者数	延べ利用件数
平成 15	1,384	277	22,643
16	2,397	282	25,096
17	3,330	300	28,138
18	4,153	279	26,545
19	4,460	291	23,121

(「練馬区勢概要」(平成 16～20 年版)、「ねりまの福祉」(平成 20 年版)、利用者数、援助者数は各年度 3 月 31 日現在)

子育てのひろば等の利用状況の推移

年度	子育てのひろば(びよびよ)		民設子育てのひろば		学童クラブ活用型子育て支援事業(にこにこ)	
	か所数	延べ利用人数	か所数	延べ利用人数	か所数	延べ利用人数
平成 15	2	32,343	…	…	24	18,619
16	2	38,505	…	…	37	24,524
17	3	50,741	…	…	54	33,836
18	4	77,231	2	4,902	61	37,479
19	4	74,257	4	9,435	61	43,795

(「ねりまの福祉」(平成 16～20 年版)、にこにこのみ「練馬区勢概要」(平成 16～20 年版))

4. 要保護児童への対応

(1) 母子家庭、父子家庭の状況

国勢調査における平成 17 年の母子世帯総数は 2,815 世帯であり、平成 12 年より減少したものの平成 2 年の 1.11 倍となっている。特に 6 歳未満の子どもがいる世帯が 541 世帯と、平成 2 年より大きく伸びている。

一方、父子世帯総数は 345 世帯であり、平成 2 年の 0.73 倍となっている。ただし、6 歳未満の子どもがいる世帯は 33 世帯であり、平成 2 年よりやや多い。

母子家庭数、父子家庭数の推移

年	母子世帯数(世帯)					父子世帯数(世帯)				
	総数	子どもが 1 人	子どもが 2 人	子どもが 3 人以上	(再掲) 6 歳未満の子どもがいる世帯	総数	子どもが 1 人	子どもが 2 人	子どもが 3 人以上	(再掲) 6 歳未満の子どもがいる世帯
平成 2	2,544	1,350	954	240	344	474	268	161	45	24
7	2,707	1,512	955	240	495	460	263	155	42	46
12	3,298	1,784	1,178	336	708	434	239	152	43	54
17	2,815	1,476	1,039	300	541	345	207	110	28	33

(2) 障害児の状況

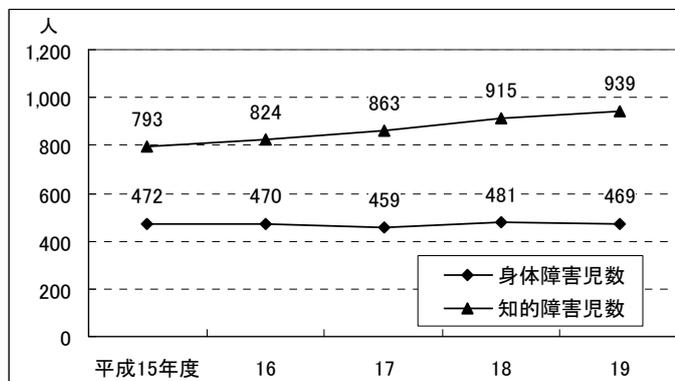
18歳未満の身体障害者数は、ここ数年ほぼ横ばいである。一方、18歳未満の知的障害者数は、支援費制度の導入および障害者自立支援法の施行に伴い増加傾向にある。両者を合わせた出現率は、人口比1.32%程度(重複は考慮しないもの)である。

18歳未満人口に対する障害児の割合の推移

(%)

年度	身体障害児	知的障害児
平成15	0.44	0.74
16	0.44	0.77
17	0.43	0.81
18	0.45	0.86
19	0.44	0.88

(人口(住民基本台帳、外国人登録者)を翌年度4月1日現在として算定した。)



(3) 不登校、いじめ、少年非行等の状況

長期欠席児童・生徒数は、平成19年度は平成15年度に比べると減少している。小学生は病気による理由が36.3%、不登校が41.2%、一方、中学生は不登校が82.3%である。

理由別長期欠席児童・生徒数の推移

(人)

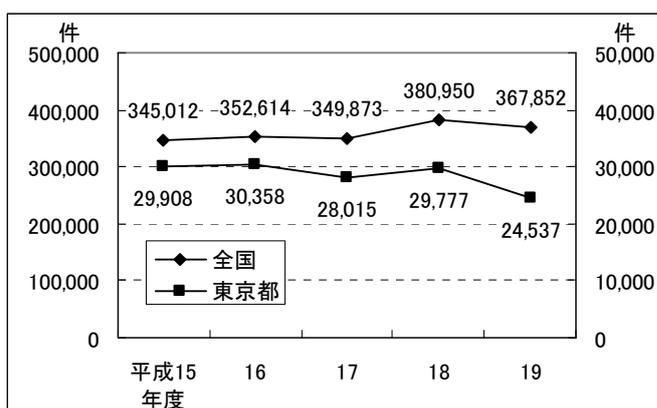
年度	小学校					中学校				
	病気	経済的理由	不登校	その他	計	病気	経済的理由	不登校	その他	計
平成15	181	0	122	78	381	58	0	434	65	557
16	146	0	124	77	347	67	0	405	72	544
17	124	1	103	73	301	68	0	384	37	489
18	173	1	123	86	383	57	2	397	28	484
19	120	0	136	74	330	40	1	375	37	453

(「練馬区教育要覧」(平成16~20年版))

【長期欠席児童】1年間に30日以上欠席した児童・生徒をいう。

児童相談所の相談件数は、全国、東京都ともここ数年は横ばいの状況となっている。こうした中、東京都の状況として、不登校(園)は減少、非行(ぐ犯、触法)は横ばいとなっている一方で、いじめの件数は平成 17 年度に平成 15 年度以来最低となったが、以後増加に転じた。

児童相談所の相談件数の推移(全国、東京都)



東京都の不登校、いじめ、非行の処理状況

年度	(件)		
	不登校(園)	いじめ	非行(ぐ犯、触法)
平成15	1,037	236	1,495
16	1,018	204	1,651
17	882	175	1,530
18	915	254	1,623
19	696	272	1,633

(「東京都児童相談所事業概要」(2008年(平成20年)版))

(4) 児童虐待の状況

平成 19 年度の東京都の児童虐待の相談件数に関して、虐待内容別では身体的虐待が 1,722 件(52.1%)、保護の怠慢・拒否(ネグレクト)が 843 件(25.5%)、また、主たる虐待者別では実母が 1,743 件(52.7%)、実父が 540 件(16.3%)などとなっている。

東京都の児童相談所における虐待相談の状況(虐待内容別)

年度	合計	(件)			
		身体的	保護の怠慢・拒否(ネグレクト)	心理的	性的
平成15	2,206	1,271	503	365	67
16	3,026	1,758	672	501	95
17	3,146	1,681	824	577	64
18	3,265	1,727	860	585	93
19	3,307	1,722	843	662	80

東京都の児童相談所における虐待相談の状況(主たる虐待者別)

年度	合計	(件)				
		実父	実父以外の父親	実母	実母以外の母親	その他
平成15	2,206	337	103	1,120	18	628
16	3,026	482	154	1,471	25	894
17	3,146	531	161	1,577	29	848
18	3,265	549	158	1,714	30	814
19	3,307	540	174	1,743	34	816

IV サービス利用者等のニーズ調査

IV-1 就学前・小学校児童家庭の調査結果

1. 調査仕様

	就学前児童家庭	小学校児童家庭
①調査地域	区全域	区全域
②調査対象	区内に在住する就学前児童（0歳から6歳）の保護者	区内の12小学校の各学年より選定した1クラス全員の児童の保護者
③標本数	3,000件	2,000件
④抽出方法	住民基本台帳登録者のうち、平成21年1月1日現在、0歳から6歳の子どもの持つ保護者を無作為抽出	各地区の対象児童の人口バランスを考慮し、それぞれ1～2校選定
⑤調査方法	郵送配布・回収法	学校を經由して配付、回収
⑥調査期間	平成21年1月26日～2月9日	平成21年1月26日～2月9日
⑦回収数 ・回収率	1,835件 有効回答率=61.2%	1,733件 有効回答率=86.7%

2. 調査結果の概要

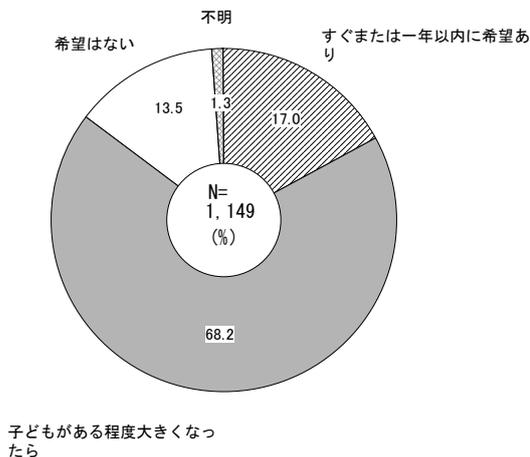
①子ども、家族の状況

就学前児童家庭の構成は、「父母同居」が89.1%、「祖母近居」が28.9%など。なお、「母同居（ひとり親家庭）」は3.3%、「父同居（ひとり親家庭）」は0.2%。子どもの数は平均1.8人となっている。
 小学校児童家庭の構成は、「父母同居」が84.1%、「祖母近居」が24.8%など。なお、「母同居（ひとり親家庭）」は8.3%、「父同居（ひとり親家庭）」は1.0%。子どもの数は平均2.1人となっている。
 就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれでも、日ごろ子どもを預かってくれる人は「緊急時等の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」が5割程度で多く、「いずれもない」も2割前後占めている。

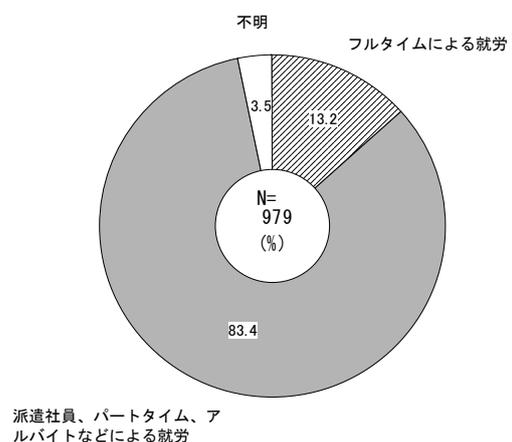
②就労状況について

就学前児童家庭、小学校児童家庭の母親については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」などが多く、就労希望を聞いたところ、「子どもがある程度大きくなったら」が最も多くなっている。また希望する就労形態は「派遣社員、パートタイム、アルバイトなどによる就労」が多い。

就学前児童家庭 母親の就労希望



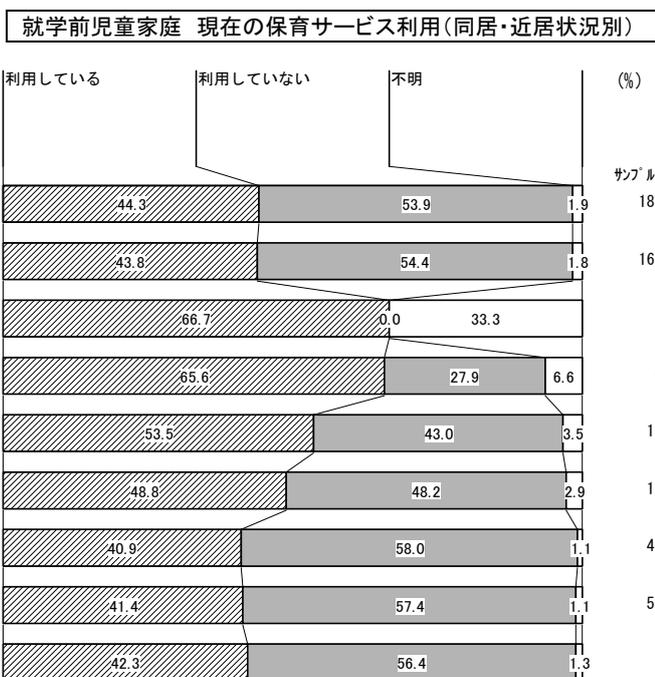
就学前児童家庭 希望する就労形態



③保育サービスなどの利用状況について

就学前児童家庭の保育サービスを利用している保護者は 44.3%で、ひとり親家庭では 6 割以上を占めている。保育サービスを利用していると回答した人の利用しているサービスについて子どもの年齢別に見ると、0歳では「区立・私立認可保育所」と「認証保育所・保育室」、1、2歳では「区立・私立認可保育所」、3～5歳では「幼稚園：通常の就園時間」が多い。

保育サービスの利用状況



(注) 表側の「父同居」はサンプル数が少ないため参考値とする。
表側の同居・近居状況の「不明」は除く。

利用しているサービス

就学前児童家庭 利用している子育て支援サービス(子どもの年齢別)

	TOTAL	区立・私立認可保育所	幼稚園：通常の就園時間	幼稚園の預かり保育	認証保育所・保育室	ファミリーサポートセン	その他の保育施設	家庭福祉員	ベビーシッター	事業所内保育施設	時間のみの保育：共通利用	認定こども園：共通利用	時間以上の保育：共通利用	不明
TOTAL	812	42.2	41.4	13.9	8.3	5.8	4.2	1.6	1.6	1.4	0.1	0.0	0.0	0.1
0歳	67	38.8	1.5	0.0	32.8	19.4	7.5	6.0	1.5	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1歳	93	63.4	4.3	2.2	14.0	10.8	7.5	4.3	1.1	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
2歳	98	63.3	8.2	3.1	16.3	7.1	11.2	3.1	2.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
3歳	181	32.0	60.2	22.1	2.8	2.2	1.7	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
4歳	196	31.1	63.3	18.4	3.1	1.5	2.6	1.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
5歳	171	42.7	52.6	18.7	2.3	5.8	1.2	0.0	1.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0

(注) 網掛けは 30%以上。また表側の子どもの年齢の「不明」は除く。

④保育サービスの利用意向について

就学前児童家庭の保育サービスのニーズを子どもの年齢別に見ると、いずれも「区立・私立認可保育所」「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」が多く、3歳では「病時・病後時保育」も多い。サービスを利用したい理由は「そのうち就労したいと考えている」が最も多く42.9%となっている。

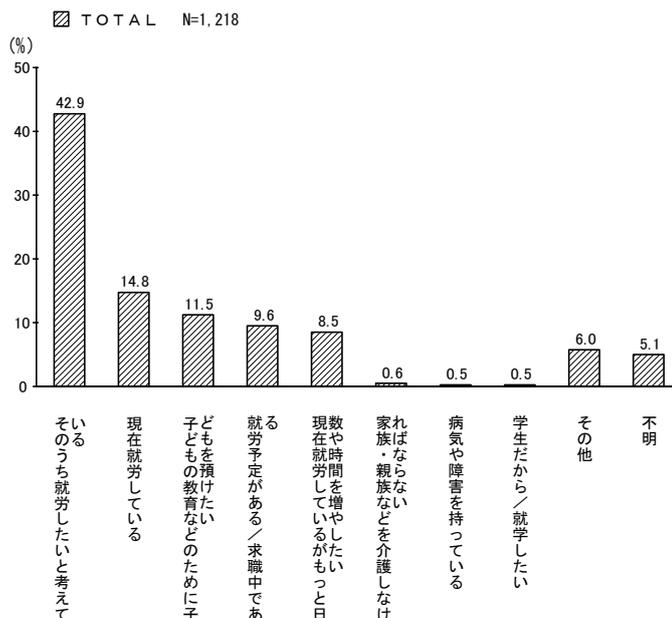
保育サービスの 利用ニーズ

就学前児童家庭 できれば利用したい、または不足している保育サービス(子どもの年齢別)

	TOTAL	区立・私立認可保育所	一時預かり	幼稚園の預かり保育	病児・病後児保育	延長保育	幼稚園：通常の就園時間	事業所内保育施設	ファミリーサポートセンター	認証保育所・保育室	時間以上の保育の利用	認定こども園：共通利用	時間のみ保育の利用	認定こども園：共通利用	家庭福祉員	ベビーシッター	その他の保育施設	特になし	不明
TOTAL	1835	34.7	27.1	26.4	21.4	14.7	13.6	8.9	8.1	7.1	7.0	5.4	4.5	3.7	1.4	15.2	5.8		
0歳	494	56.7	24.5	20.2	20.2	16.6	18.4	10.1	11.1	12.6	8.3	6.7	6.5	4.7	1.4	9.1	2.4		
1歳	296	39.5	35.1	28.4	18.9	14.2	22.0	13.5	7.1	10.8	9.8	9.5	7.1	2.7	3.0	8.8	6.1		
2歳	257	30.7	31.5	35.8	23.0	14.8	17.9	5.4	6.2	4.7	6.6	5.1	3.1	1.9	1.2	10.1	6.6		
3歳	255	24.7	29.4	28.6	26.7	13.7	6.3	9.0	7.5	3.5	5.1	3.5	2.7	6.3	0.0	18.4	7.1		
4歳	267	18.0	22.5	27.0	17.6	15.4	7.5	7.1	5.6	2.2	6.7	3.7	1.5	3.0	1.9	24.0	7.5		
5歳	258	19.0	21.3	23.3	24.0	11.6	4.7	6.2	8.5	2.7	3.9	2.3	3.9	2.3	0.8	26.7	7.8		

(注) 網掛けは20%以上。また表側の子どもの年齢の「不明」は除く。

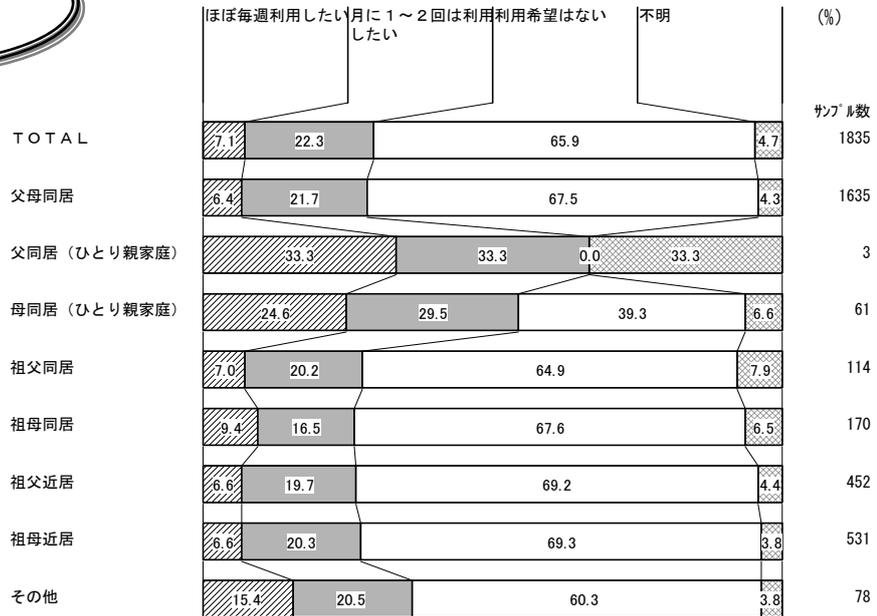
就学前児童家庭 サービスを利用したい理由



就学前児童家庭の土曜日の保育サービスの利用希望は 29.4%で、中でもひとり親家庭でのニーズが多い。

土曜日の保育サービスの利用希望

就学前児童家庭 土曜日の保育サービス利用意向(同居・近居状況別)



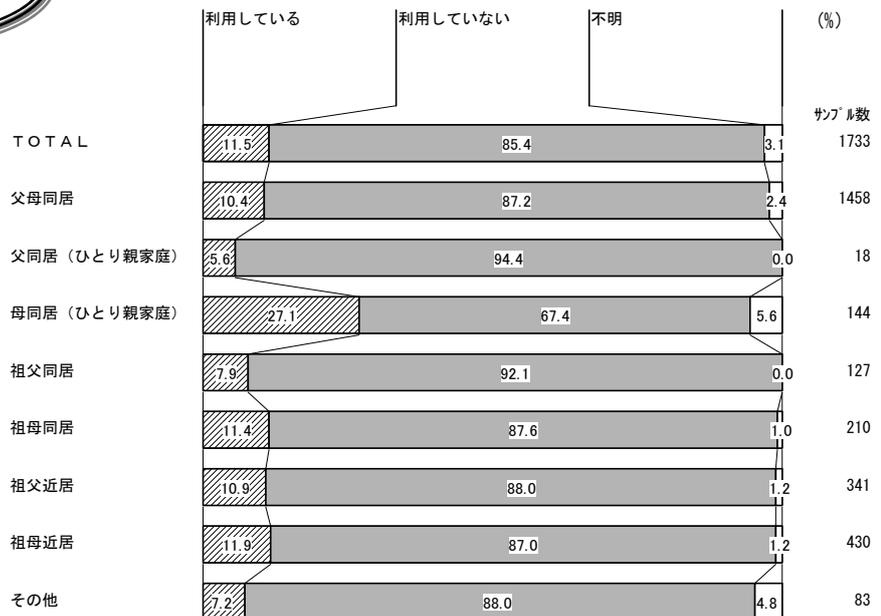
(注) 表側の同居・近居状況の「不明」は除く。

⑤学童クラブの利用状況、利用意向について

小学校児童家庭で、学童クラブを利用している保護者は 11.5%で、中でも「母同居(ひとり親家庭)」では 27.1%である。

平日の学童クラブの利用状況

小学校児童家庭 学童クラブの利用意向(同居・近居状況別)

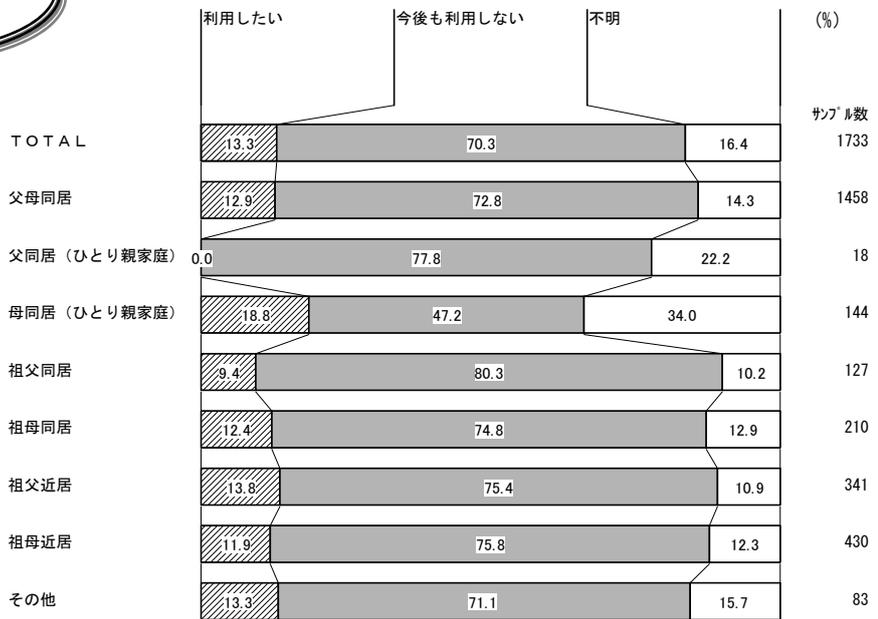


(注) 表側の同居・近居状況の「不明」は除く。

小学校児童家庭の学童クラブの今後の利用希望は 13.3%で、特に1～3年生では 20.8%で他と比較して多い。

平日の学童クラブの利用希望

小学校児童家庭 今後の学童クラブの利用意向(同居・近居状況別)

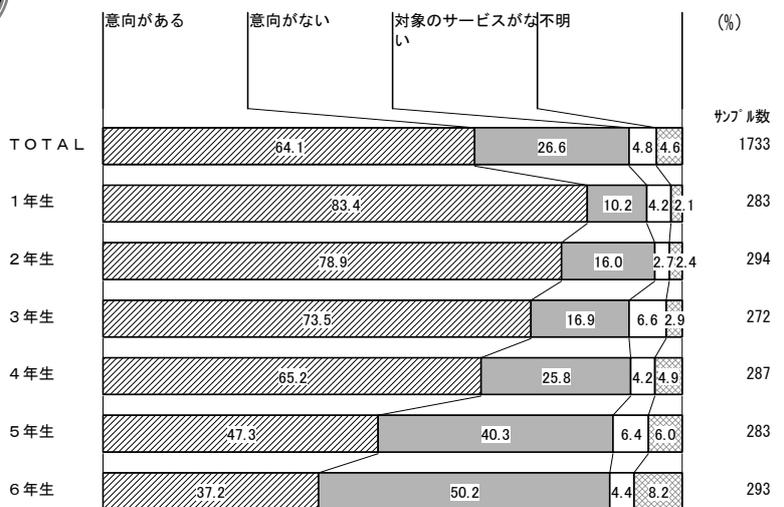


(注) 表側の同居・近居状況の「不明」は除く。

小学校児童家庭の児童放課後等居場所づくり事業の利用について「意向がある」は、64.1%である。

児童放課後等居場所づくり事業の利用意向

小学校児童家庭 児童放課後等居場所づくり事業利用意向(学年別)



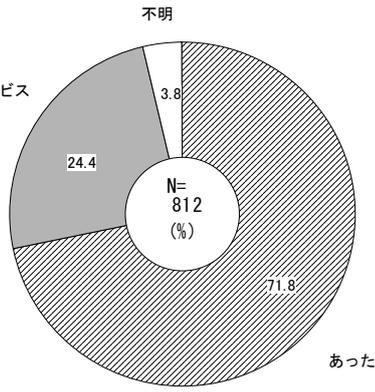
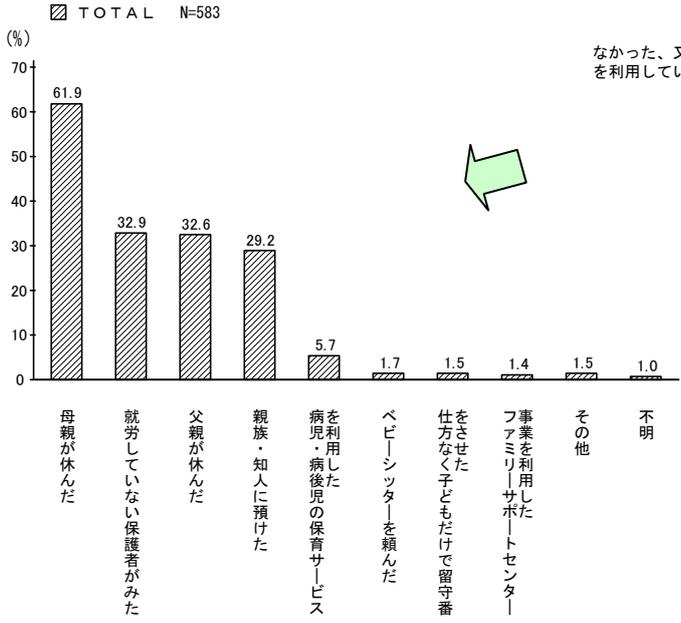
(注) 表側の学年の「不明」は除く。

⑥子どもが病気になったときの対応、一時預かりについて

平日の保育サービスを利用している就学前児童家庭の保護者の71.8%が、この1年間の間に子どもが病気で保育所等を休まなければならなかったことがあり、その際には「母親が休んだ」割合が最も高い。また34.2%の保護者が、この1年間の間に緊急の用事で、日中子どもの面倒を見るのが困難になったことがあり、9.2%の保護者が、子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかった経験がある。

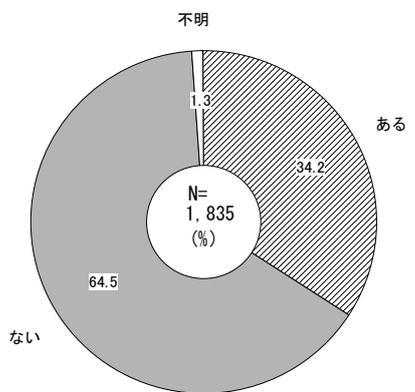
就学前児童家庭
1年間の間に病気で保育所等を休まなければならなかったこと

就学前児童家庭
病気等で通常保育サービスが利用できなかった時の対処方法

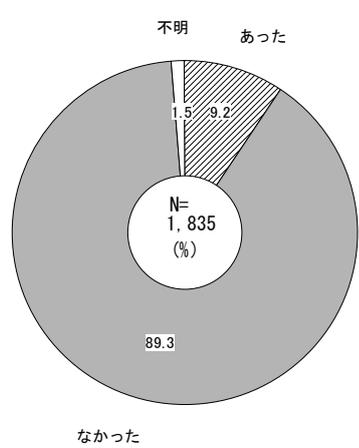


病気時対応

就学前児童家庭
緊急の用事で、日中子どもの面倒を見るのが困難になったこと



就学前児童家庭
子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかった経験



一時預かり

子育てに関する情報を「隣近所の人、地域の知人、友人」から入手するのは、就学前児童家庭で69.2%、小学生児童家庭で73.2%と割合が高い。

子育てに関する
情報入手先

[就学前児童] N=1,835 複数回答

- 1位 隣近所の人、地域の知人、友人 69.2%
- 2位 保育園、幼稚園、学校 56.1%
- 3位 その他の親族（親、兄弟姉妹など）53.9%

[小学校] N=1,733 複数回答

- 1位 隣近所の人、地域の知人、友人 73.2%
- 2位 テレビ、ラジオ、新聞 55.8%
- 3位 保育園、幼稚園、学校 55.7%

子育てに関する不安や負担があるときには、就学前児童家庭の83.3%、小学生児童家庭の74.8%が「配偶者・パートナー」に相談している。

悩みや不安などの
相談相手

[就学前児童] N=1,835 複数回答

- 1位 配偶者・パートナー 83.3%
- 2位 その他の親族（親、兄弟姉妹など）68.2%
- 3位 隣近所の人、地域の知人、友人 61.6%

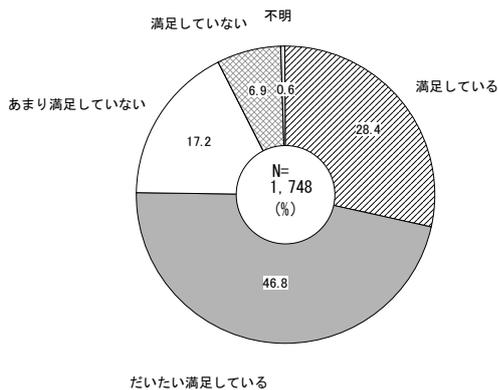
[小学校] N=1,733 複数回答

- 1位 配偶者・パートナー 74.8%
- 2位 隣近所の人、地域の知人、友人 66.0%
- 3位 その他の親族（親、兄弟姉妹など）59.3%

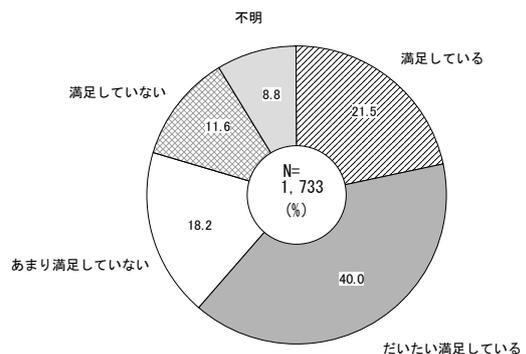
就学前では7割を超える配偶者・パートナーの育児参加の満足度に比べ、小学校ではやや減少している。配偶者・パートナーによる「気遣い」「子どもと遊ぶ」「相談に乗ってくれる」が満足度向上のための要望として多い。

配偶者・パートナ
ーの子育て参加

就学前児童家庭 配偶者・パートナーの育児参加の仕方への満足度

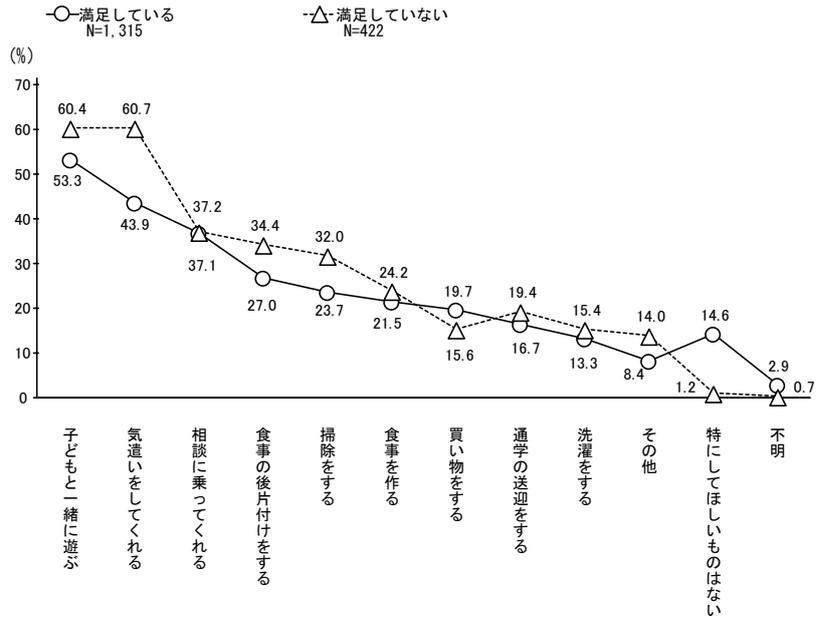


小学校児童家庭 配偶者・パートナーの育児参加の仕方への満足度



配偶者・パートナーへの要望

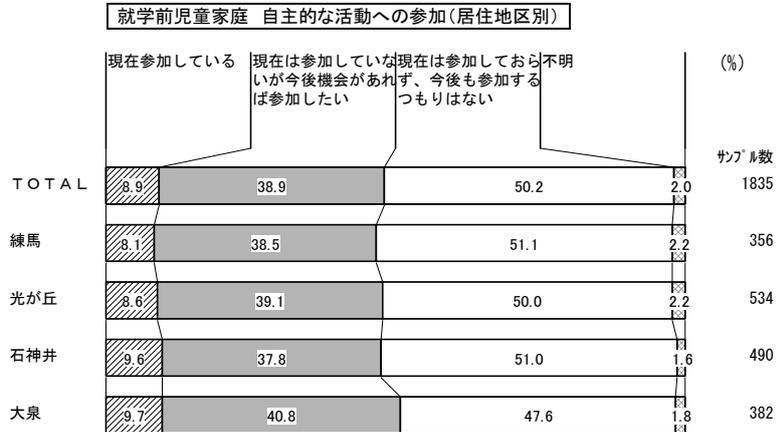
就学前児童家庭 配偶者・パートナーに育児参加して欲しいもの
(配偶者・パートナーの育児参加への満足度比較)



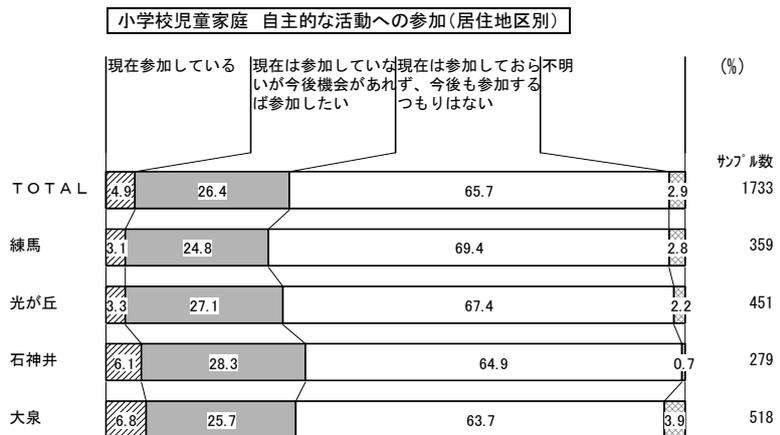
⑧地域での子育て支援について

子育てサークルなど自主的な活動への参加意向については、就学前児童家庭では地区別で目立った特長はない。小学校児童家庭では、全体的に参加意向が低い。
 自主的な活動での行政への要望については、就学前児童家庭の 60.6%、小学生児童家庭の 49.0%が「区からの情報提供」と回答している。

子育てサークル
 などへの参加



(注) 表側の居住地区の「不明」は除く。



(注) 表側の居住地区の「不明」は除く。

自主的な活動での
 行政への要望

[就学前児童] N=878 複数回答

- 1位 区からの情報提供 60.6%
- 2位 活動場所の提供(場所貸しなど) 46.8%
- 3位 活動時間中の保育サービス 40.9%

[小学校] N=543 複数回答

- 1位 区からの情報提供 49.0%
- 2位 活動場所の提供(場所貸しなど) 40.1%
- 3位 活動資金助成 28.9%

⑨子どもの遊び場、外出時の困りごと等について

子どもの遊び場への意識の第1位は、就学前、小学校ともに「雨の日に遊べる場所がない」となっている。就学前児童家庭での子どもと外出の際の困りごとは「建物などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと」に関する要望が多い。

子どもの遊び場
への意識

就学前児童家庭 子どもの遊び場への意識（居住地区別）

	TOTAL	雨の日に遊べる場所がない	遊具などの種類が充実していない	思い切り遊ぶために十分な広さが足りない	不衛生である	遊び場やその周辺の道路が交通安全上よくない	近くに遊び場がない	いつも閑散としていて寂しい感じがする	緑などの自然が少ない	遊び場に行くのも遊び仲間に入りにくい	遊び場に子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がいない	遊び場やその周辺の環境が防犯上よくない	遊具などの設備が古くて危険である	遊び場に行くのも遊び仲間に入りにくい	その他	特に感じることはない	不明
TOTAL	1835	55.3	29.3	21.0	17.9	15.4	12.5	11.7	9.6	9.4	9.3	8.1	6.6	6.8	12.2	2.7	
練馬	356	61.2	27.8	24.2	22.8	12.9	12.4	11.8	15.4	8.7	9.3	10.1	5.6	8.4	9.3	2.2	
光が丘	534	50.4	23.6	16.1	18.2	14.8	9.2	8.6	7.7	8.6	7.5	8.2	6.2	6.9	15.9	3.9	
石神井	490	56.3	30.4	23.1	16.1	15.3	13.3	10.0	9.2	8.4	9.2	6.7	7.8	6.1	12.2	1.4	
大泉	382	57.3	37.2	21.7	16.2	18.1	16.8	16.0	7.9	12.0	10.7	7.9	6.8	5.5	10.7	2.4	

(注) 網掛けは30%以上。表側の居住地区の「不明」は除く。

小学校児童家庭 子どもの遊び場への意識（居住地区別）

	TOTAL	雨の日に遊べる場所がない	遊具などの種類が充実していない	思い切り遊ぶために十分な広さが足りない	防犯上よくない	遊び場やその周辺の道路が交通安全上よくない	近くに遊び場がない	いつも閑散としていて寂しい感じがする	緑などの自然が少ない	不衛生である	遊び場に子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がいない	遊び場やその周辺の環境が防犯上よくない	遊具などの設備が古くて危険である	遊び場に行くのも遊び仲間に入りにくい	その他	特に感じることはない	不明
TOTAL	1733	49.2	38.4	19.6	18.8	15.4	13.5	9.3	8.7	7.1	5.5	4.0	3.6	7.0	14.5	2.6	
練馬	359	46.5	47.9	19.5	23.1	15.9	18.7	12.0	13.4	5.8	6.4	3.6	3.6	8.4	9.2	1.7	
光が丘	451	43.5	27.3	20.4	14.0	10.0	8.2	8.0	3.5	9.1	3.5	3.8	4.7	8.0	22.0	3.1	
石神井	279	58.8	43.0	14.7	18.3	15.8	12.2	8.2	9.0	3.9	7.5	3.2	3.6	7.9	12.9	1.4	
大泉	518	50.4	39.8	22.2	20.3	20.8	16.0	7.3	9.7	6.9	6.0	4.1	2.9	4.6	12.7	3.1	

(注) 網掛けは40%以上。表側の居住地区の「不明」は除く。

子どもと外出の
際の困ること

[就学前児童] N=1,835 複数回答

- 1位 建物などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと 32.6%
- 2位 トイレがオムツ替えなど利用に配慮されていないこと 31.9%
- 3位 歩道も自転車が通るなど、安心して歩けないこと 31.1%

⑩仕事と子育てとの両立について

仕事と子育てとの両立で大変だと感じることについては、就学前児童家庭の 56.6%、小学生児童家庭の 49.8%が「自分が病気などの時に代わりがない」と回答している。
 仕事と子育てとの両立で職場への要望については、就学前児童家庭の 42.9%、小学生児童家庭の 48.9%が「職場や上司の理解・協力体制」と回答している。

仕事と子育ての
両立で大変なこと

[就学前児童] N=638 複数回答

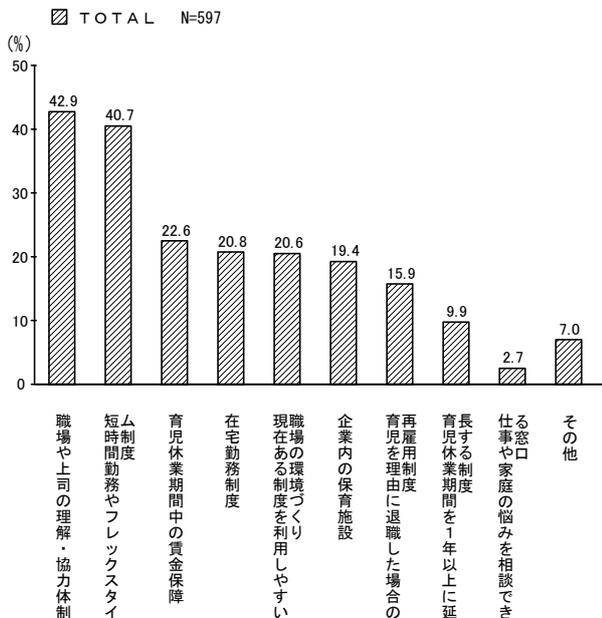
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 56.6%
- 2位 子どもと接する時間が少ない 40.1%
- 3位 保育料などの出費が多い 31.0%

[小学校] N=865 複数回答

- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 49.8%
- 2位 子どもと接する時間が少ない 33.3%
- 3位 急な残業が入ってしまう 25.1%

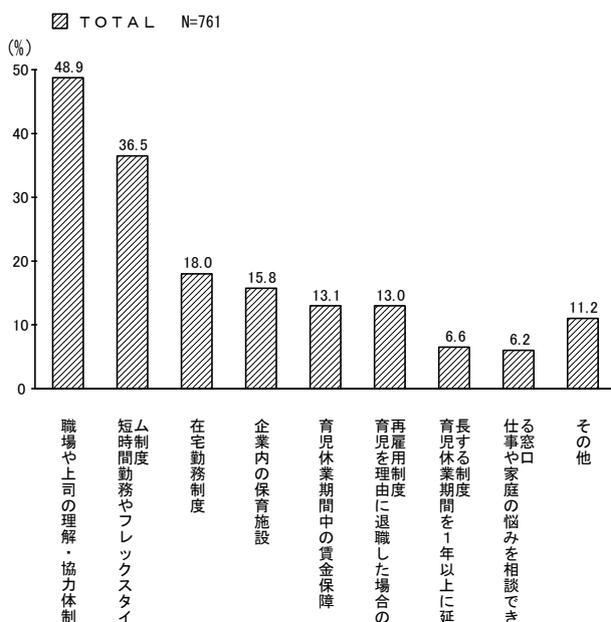
仕事と子育ての
両立のための要望

就学前児童家庭 仕事と子育てを両立させるために職場に望むこと



(注)「不明」は除く。

小学校児童家庭 仕事と子育てを両立させるために職場に望むこと

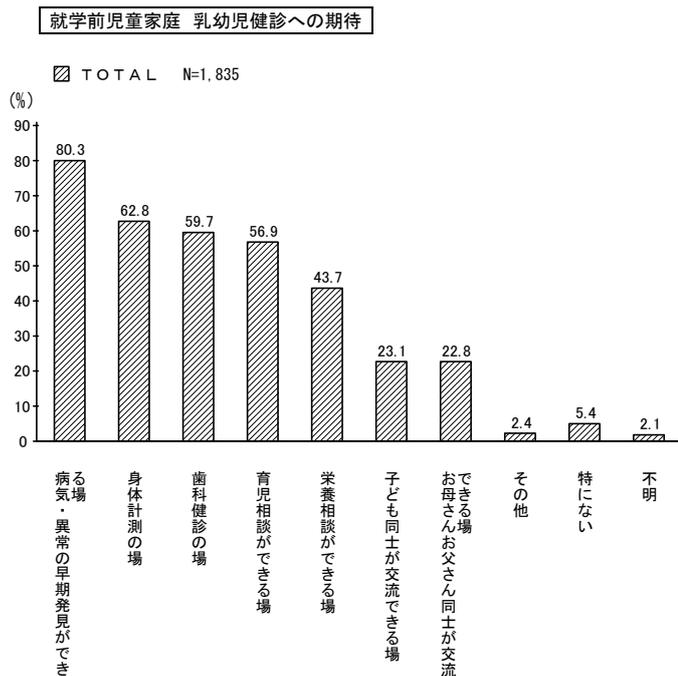


(注)「不明」は除く。

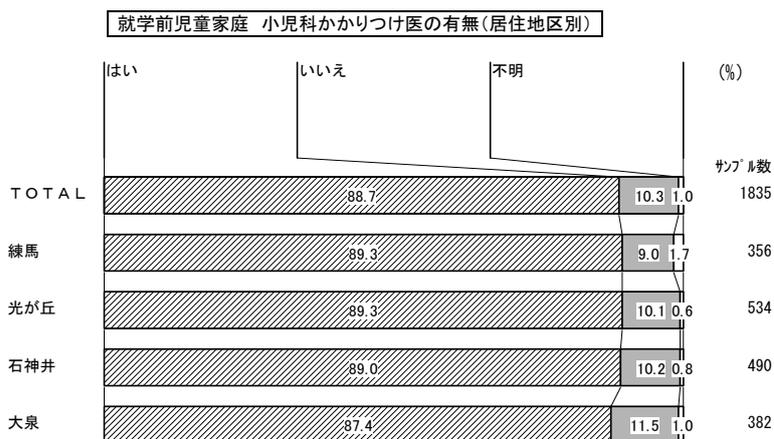
⑪母子保健、地域医療等について

就学前児童家庭の乳幼児健診への満足度は高く、期待することとしては「病気・異常の早期発見ができる場」が最も多い。
 就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも、かかりつけ医については約9割、小児救急医療機関の認知については約8割が「あり」と回答している。

乳幼児健診へ期待すること



小児科かかりつけ医の有無

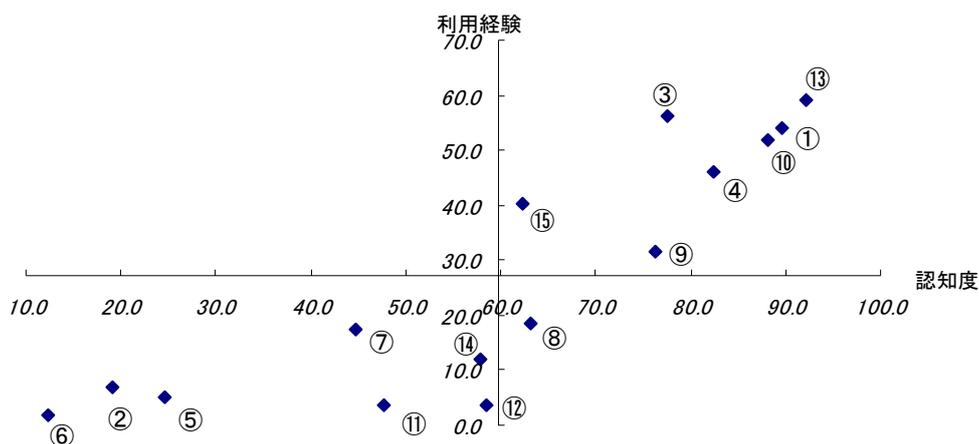


(注) 表側の居住地区の「不明」は除く。

⑫子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向について

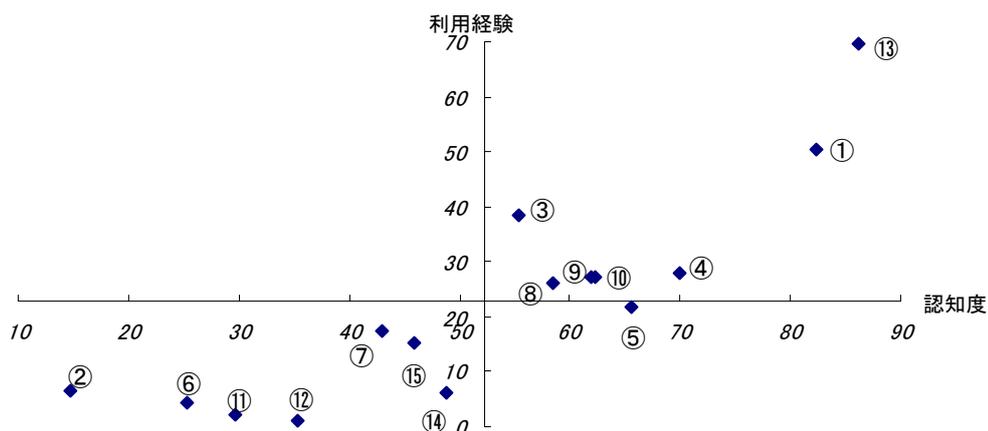
認知度、利用経験が共に高いサービスは、就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも「区が主催する母親学級、両親学級、育児教室」「児童館、学童クラブ、地区区民館等の児童室」である。
また、利用経験と利用意向が高いサービスは、就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも「児童館、学童クラブ、地区区民館等の児童室」である。

就学前児童家庭 子育て支援サービスの認知度と利用経験マトリックス (%)



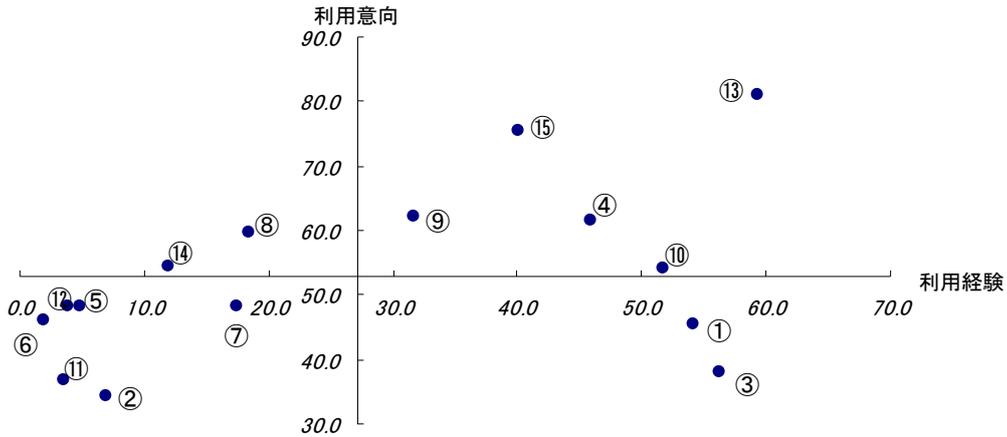
- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①区主催の母親学級、両親学級 | ⑨保育園や幼稚園の園庭等の開放・地域交流等 |
| ②母性健康管理指導事項連絡カード | ⑩子育てのひろば「ぴよぴよ」、「にこにこ」等 |
| ③保健相談所のこんにちは赤ちゃん事業 | ⑪一時保育 |
| ④保健所、保健相談所の情報・相談サービス | ⑫病後児保育 |
| ⑤家庭教育に関する学級・講座 | ⑬児童館・学童クラブ・地区区民館等の児童室 |
| ⑥総合教育センターの情報・相談サービス | ⑭子ども家庭支援センター |
| ⑦幼稚園の未就園児保育 | ⑮区の子育て情報に関するホームページ |
| ⑧幼稚園の預り保育 | |

小学校児童家庭 子育て支援サービスの認知度と利用経験マトリックス (%)



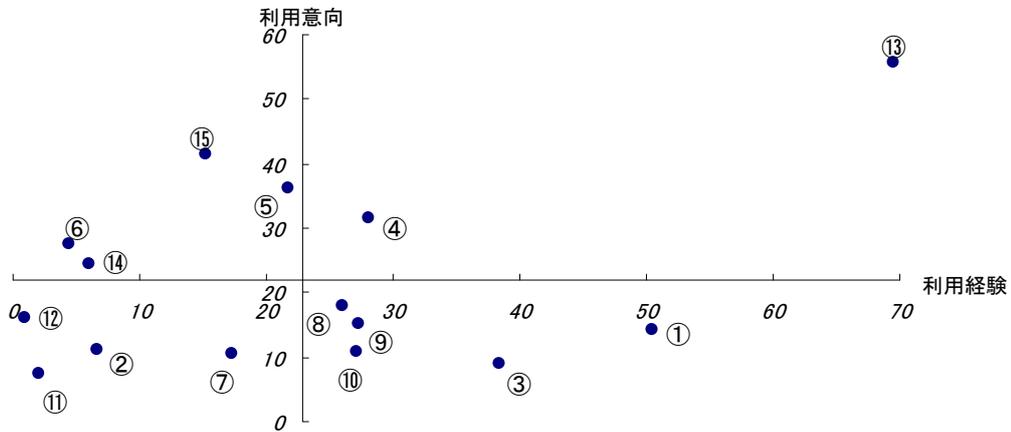
- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①区主催の母親学級、両親学級 | ⑨保育園や幼稚園の園庭等の開放・地域交流等 |
| ②母性健康管理指導事項連絡カード | ⑩子育てのひろば「ぴよぴよ」、「にこにこ」等 |
| ③保健相談所のこんにちは赤ちゃん事業 | ⑪一時保育 |
| ④保健所、保健相談所の情報・相談サービス | ⑫病後児保育 |
| ⑤家庭教育に関する学級・講座 | ⑬児童館・学童クラブ・地区区民館等の児童室 |
| ⑥総合教育センターの情報・相談サービス | ⑭子ども家庭支援センター |
| ⑦幼稚園の未就園児保育 | ⑮区の子育て情報に関するホームページ |
| ⑧幼稚園の預り保育 | |

就学前児童家庭 子育て支援サービスの利用経験&利用意向マトリックス (%)



- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①区主催の母親学級、両親学級 | ⑨保育園や幼稚園の園庭等の開放・地域交流等 |
| ②母性健康管理指導事項連絡カード | ⑩子育てのひろば「ぴよぴよ」、「にこにこ」等 |
| ③保健相談所のこんにちは赤ちゃん事業 | ⑪一時保育 |
| ④保健所、保健相談所の情報・相談サービス | ⑫病後児保育 |
| ⑤家庭教育に関する学級・講座 | ⑬児童館・学童クラブ・地区区民館等の児童室 |
| ⑥総合教育センターの情報・相談サービス | ⑭子ども家庭支援センター |
| ⑦幼稚園の未就園児保育 | ⑮区の子育て情報に関するホームページ |
| ⑧幼稚園の預り保育 | |

小学校児童家庭 子育て支援サービスの利用経験&利用意向マトリックス (%)



- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①区主催の母親学級、両親学級 | ⑨保育園や幼稚園の園庭等の開放・地域交流等 |
| ②母性健康管理指導事項連絡カード | ⑩子育てのひろば「ぴよぴよ」、「にこにこ」等 |
| ③保健相談所のこんにちは赤ちゃん事業 | ⑪一時保育 |
| ④保健所、保健相談所の情報・相談サービス | ⑫病後児保育 |
| ⑤家庭教育に関する学級・講座 | ⑬児童館・学童クラブ・地区区民館等の児童室 |
| ⑥総合教育センターの情報・相談サービス | ⑭子ども家庭支援センター |
| ⑦幼稚園の未就園児保育 | ⑮区の子育て情報に関するホームページ |
| ⑧幼稚園の預り保育 | |

⑬子育て施策の重点について

子育て支援施策に行政として力をいれてほしいところについては、就学前児童家庭、小学校児童家庭ともに「防犯対策を強化してほしい」が最も多い。

就学前児童家庭 行政として力をいれてほしい子育て支援施策（子どもの年齢別）

	TOTAL	防犯対策を強化してほしい	犯罪に巻き込まれないよう、める場所を増やして欲しい	子どもでも出かけやすい場所を増やして欲しい	負担を軽減して欲しい	保育園や幼稚園にかかる費用	交通安全に遭わないよう交通	数等を増やして欲しい	保育園を増やしたり、利用日	かかると子どもが医療機関に	安心して子どもを預けたい	事業者に対して職場の改善	用日数を増やして欲しい	学童クラブを増やしたり、利	な場や機会が欲しい	親子が安心して集まれる身近	りする場を作った時に相談した	子育てに困った時に相談した	多子世帯の優先入居など、住	宅面の配慮が欲しい	園前児も預かって欲しい	幼稚園で、就園児と一緒に就	誰でも気軽に利用できる保育	サービスを養成して欲しい	数等を増やして欲しい	幼稚園を増やして欲しい	利用日	23.7	27.8	27.2	26.9	23.7	19.7	16.4	12.9	3.4	1.3
TOTAL	1835	71.3	62.4	57.2	50.4	49.0	48.8	31.9	28.7	27.8	27.2	26.9	23.7	19.7	16.4	12.9	3.4	1.3																			
0歳	494	65.6	71.3	61.7	44.5	60.5	54.7	38.9	22.5	37.7	29.8	22.9	22.9	21.3	16.2	17.0	3.4	1.4																			
1歳	296	69.3	68.9	63.5	51.0	54.7	49.0	30.7	24.0	31.1	31.1	27.4	32.8	21.6	16.9	16.6	2.7	1.4																			
2歳	257	68.5	65.8	57.6	47.9	45.1	38.9	29.2	23.3	25.3	31.0	29.2	28.4	22.2	16.7	11.7	1.9	0.8																			
3歳	255	77.3	60.0	59.2	47.1	47.5	47.1	33.7	33.3	22.4	27.1	32.5	20.8	19.2	19.6	12.2	3.5	0.8																			
4歳	267	74.2	55.1	56.9	55.8	37.8	49.1	28.5	34.5	25.8	31.5	24.7	18.4	16.1	16.1	8.6	2.6	1.9																			
5歳	258	78.7	45.0	40.3	61.6	37.2	48.4	24.4	39.5	15.9	18.2	28.3	19.0	16.7	13.2	7.8	6.2	1.2																			

(注) 網掛けは50%以上。表側の子どもの年齢の「不明」は除く。

小学校児童家庭 行政として力をいれてほしい子育て支援施策（学年別）

	TOTAL	防犯対策を強化してほしい	犯罪に巻き込まれないよう、める場所を増やして欲しい	子どもでも出かけやすい場所を増やして欲しい	負担を軽減して欲しい	保育園や幼稚園にかかる費用	交通安全に遭わないよう交通	数等を増やして欲しい	保育園を増やしたり、利用日	かかると子どもが医療機関に	安心して子どもを預けたい	事業者に対して職場の改善	用日数を増やして欲しい	学童クラブを増やしたり、利	な場や機会が欲しい	親子が安心して集まれる身近	りする場を作った時に相談した	子育てに困った時に相談した	多子世帯の優先入居など、住	宅面の配慮が欲しい	園前児も預かって欲しい	幼稚園で、就園児と一緒に就	誰でも気軽に利用できる保育	サービスを養成して欲しい	数等を増やして欲しい	幼稚園を増やして欲しい	利用日	23.7	27.8	27.2	26.9	23.7	19.7	16.4	12.9	3.4	1.3
TOTAL	1733	70.2	48.9	48.7	41.3	33.4	28.8	24.6	23.9	23.8	21.8	21.8	12.9	11.3	10.0	8.9	3.2	4.8																			
1年生	283	72.1	46.6	50.5	47.7	37.1	29.7	26.5	31.1	28.3	17.0	20.1	13.8	10.6	13.1	7.4	4.9	4.6																			
2年生	294	72.8	42.9	52.0	40.8	41.8	32.3	29.3	26.2	22.1	22.4	23.1	17.3	11.6	8.5	11.9	3.4	5.1																			
3年生	272	69.5	52.6	51.1	46.7	34.2	26.1	28.3	22.8	21.7	22.4	26.8	12.5	14.0	12.5	7.7	3.3	2.9																			
4年生	287	73.2	51.2	49.5	39.7	30.0	25.4	25.4	18.1	25.8	20.2	22.3	13.2	12.2	11.8	8.0	3.5	4.9																			
5年生	283	65.4	51.2	45.9	36.7	27.6	26.9	18.7	23.7	25.1	23.0	18.4	10.2	9.5	6.0	10.2	2.8	5.3																			
6年生	293	69.6	50.2	45.1	36.9	29.4	33.4	19.8	20.8	19.5	25.9	20.1	10.9	10.9	7.5	8.2	1.4	5.1																			

(注) 網掛けは40%以上。表側の学年の「不明」は除く。

IV-2 中学生、高校生の調査結果

1. 調査仕様

	中学生	高校生
①調査地域	区内	区内
②調査対象	区内の中学校に通学する2年生(10クラス)	区内に所在する高校に通学する2年生(10クラス)
③標本数	393件	460件
④抽出方法	地域別に生徒数などを勘案し11校抽出	地域別に生徒数などを勘案し5校抽出
⑤調査方法	学校を経由して配付、回収	学校を経由して配付、回収
⑥調査期間	平成21年1月26日～2月9日	平成21年1月26日～2月9日
⑦回収数 ・回収率	347件 有効回答率=88.3%	426件 有効回答率=92.6%

2. 調査結果の概要

①家族の状況

中学生の家族数の平均は4.4人、高校生の平均は4.3人。約8割には兄弟姉妹がいる。父親のほとんど、母親の7割以上が就労している。

②日常の活動・生活・居場所について

中学生、高校生ともに最もしている家事は「自分の部屋の掃除」となっている。特に「食事の準備」や「洗濯したり洗濯ものをたたんだりする」では、女子生徒の割合が高い。

家事経験

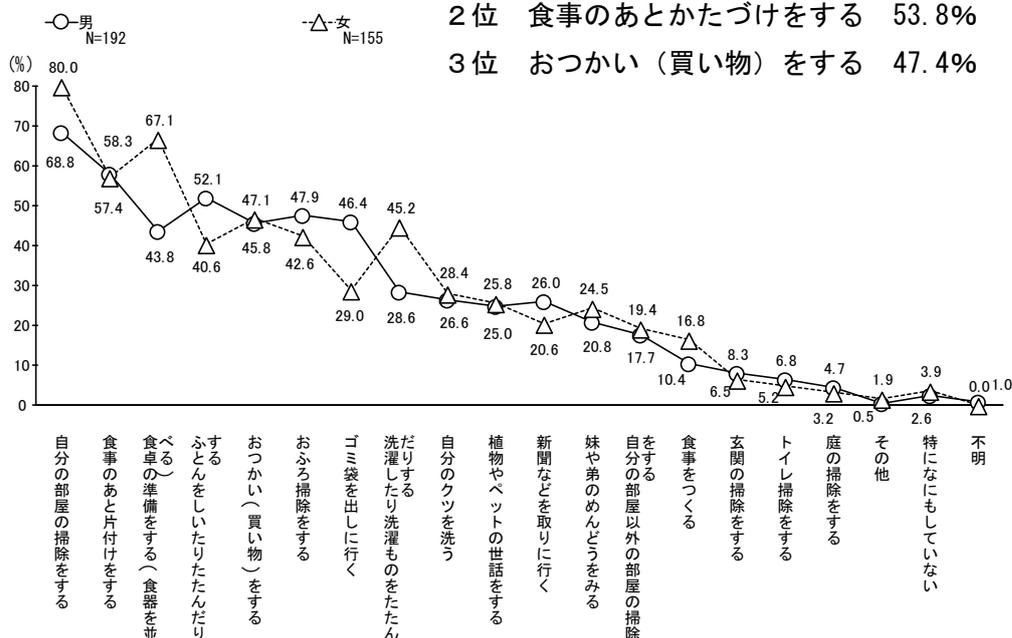
[中学生] N=347 複数回答

- 1位 自分の部屋の掃除 73.8%
- 2位 食事のあとかたづけをする 57.9%
- 3位 食卓の準備をする(食器を並べる) 54.2%

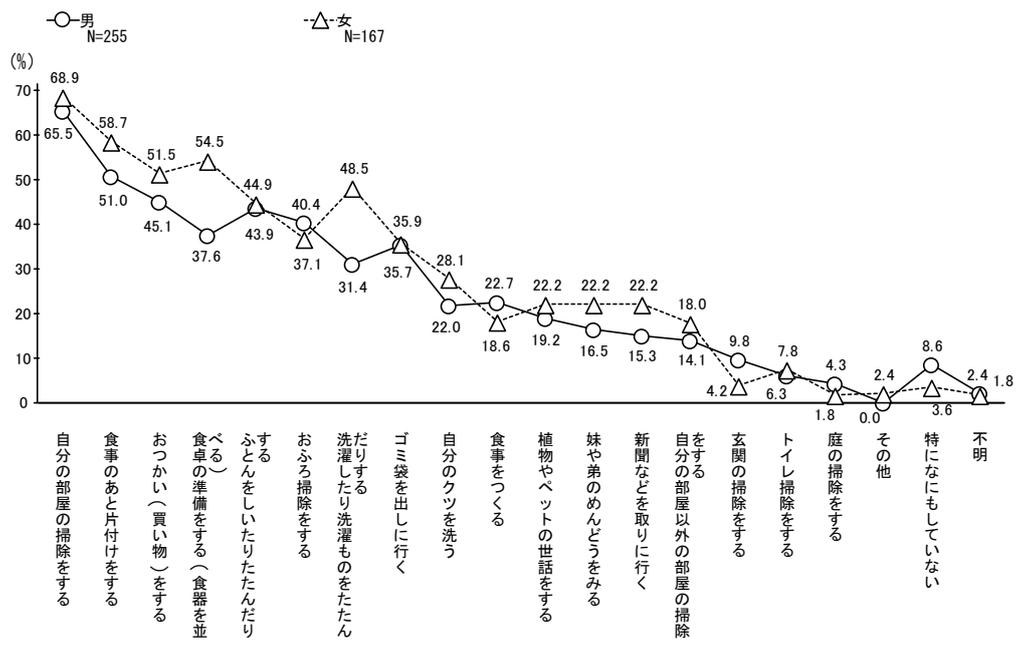
[高校生] N=426 複数回答

- 1位 自分の部屋の掃除 66.7%
- 2位 食事のあとかたづけをする 53.8%
- 3位 おつかい(買い物)をする 47.4%

家事経験(中学生・性別)



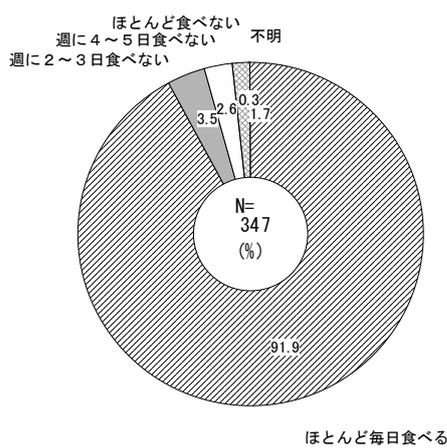
家事経験（高校生・性別）



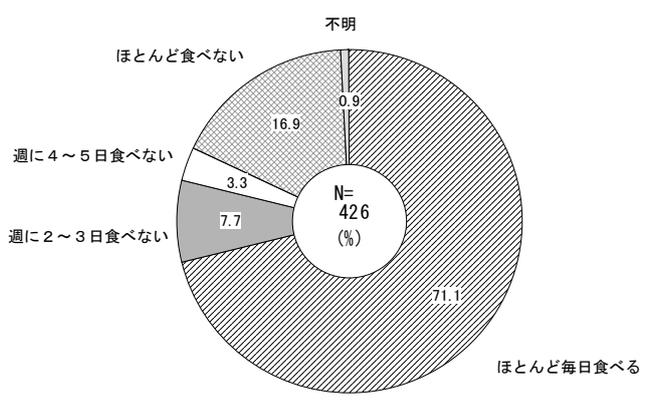
朝食は、中学生の 91.9%、高校生の 71.1%が「ほとんど毎日食べる」と回答している。

朝食の摂取

中学生 朝食摂取の有無



高校生 朝食摂取の有無



放課後および休日の居場所については、中学生、高校生ともに「自分の家」が最も多い。また、休日の居場所については、「区内の店」と「区外の店」で女子生徒の割合が多く、男子生徒との乖離が大きい。

放課後の居場所

[中学生] N=347 複数回答

- 1位 自分の家 87.6%
- 2位 部活動 65.7%
- 3位 学習塾や習いごと 49.3%

[高校生] N=426 複数回答

- 1位 自分の家 78.2%
- 2位 部活動 42.7%
- 3位 アルバイト・仕事先 36.4%

休日の居場所

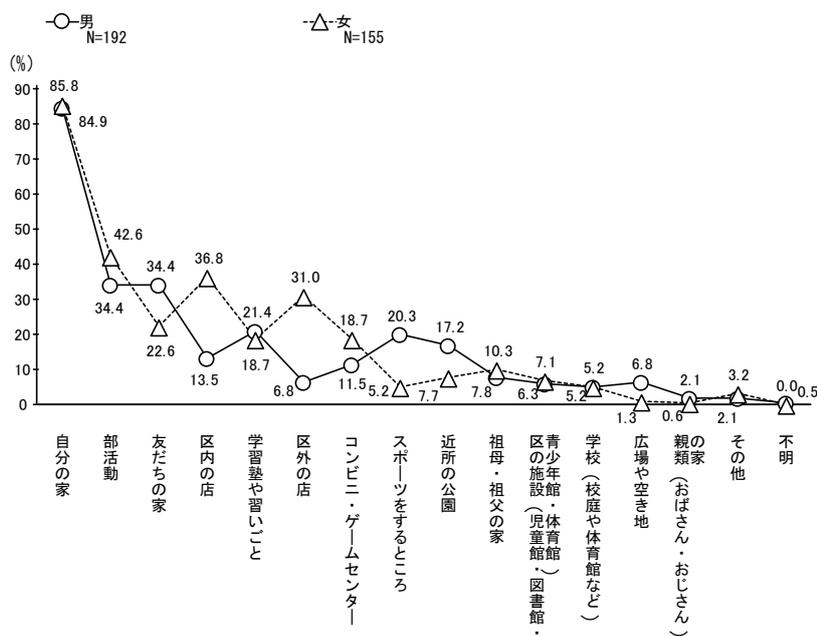
[中学生] N=347 複数回答

- 1位 自分の家 85.3%
- 2位 部活動 38.0%
- 3位 友だちの家 29.1%

[高校生] N=426 複数回答

- 1位 自分の家 76.8%
- 2位 アルバイト・仕事先 33.1%
- 3位 部活動 32.4%

休日の居場所（中学生・性別）



ほととできる時については、中学生、高校生ともに「寝ているとき」など一人の時の多い。

ほととできる時

[中学生] N=347 複数回答

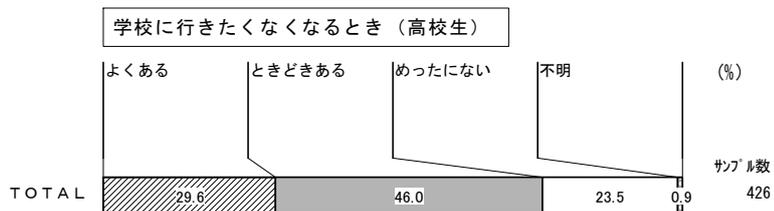
- 1位 寝ているとき 71.2%
- 2位 自分の部屋にいるとき 70.9%
- 3位 お風呂に入っているとき 61.7%

[高校生] N=426 複数回答

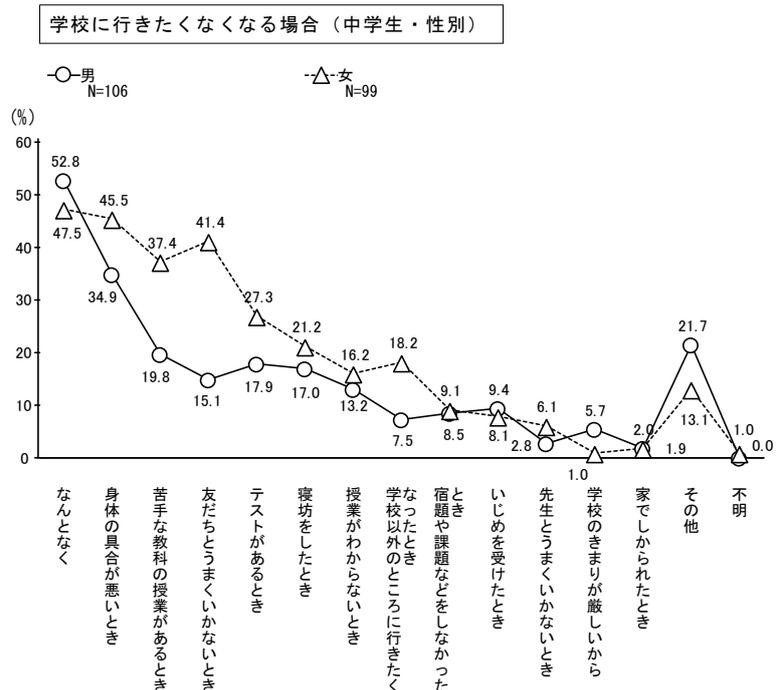
- 1位 自分の部屋にいるとき 71.1%
- 2位 寝ているとき 65.0%
- 3位 お風呂に入っているとき 61.5%

学校に行きたくなくなる時がある生徒の割合は中学生で 59.0%、高校生で 75.6%である。

学校に行きたくなくなる時



学校に行きたくなくなる場合



学校に行きたくなくなる時の対処法については、中学生、高校生ともに 50%以上が「相談しなかった」と回答している。女子生徒は男子生徒に比べて「友だち・先輩に相談」と回答した割合が多い。

対処法

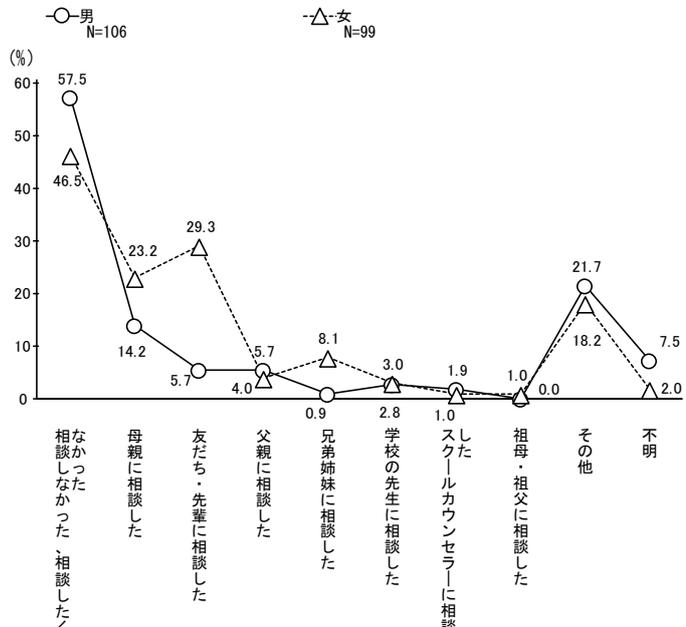
[中学生] N=205 複数回答

- 1位 相談しなかった、相談しなくなかった 52.2%
- 2位 母親に相談した 18.5%
- 3位 友だち・先輩に相談した 17.1%

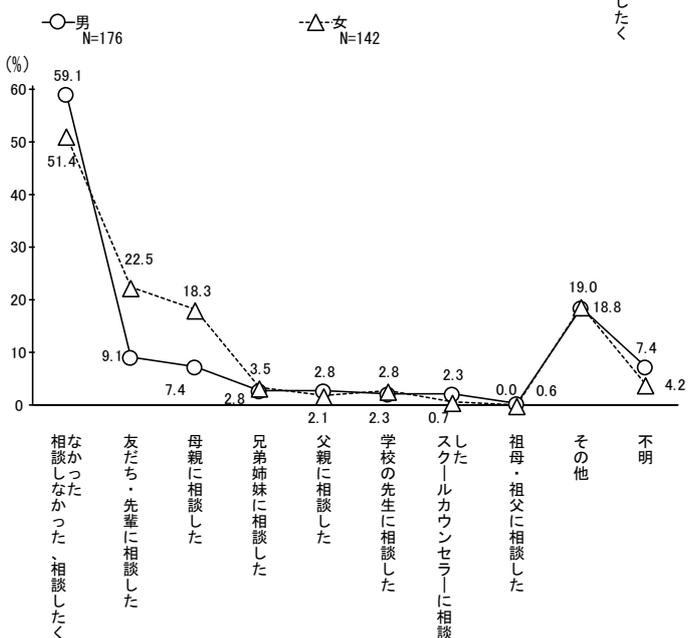
[高校生] N=426 複数回答

- 1位 相談しなかった、相談しなくなかった 55.6%
- 2位 友だち・先輩に相談した 14.9%
- 3位 母親に相談した 12.1%

学校に行きたくなくなる時の対処法（中学生・性別）

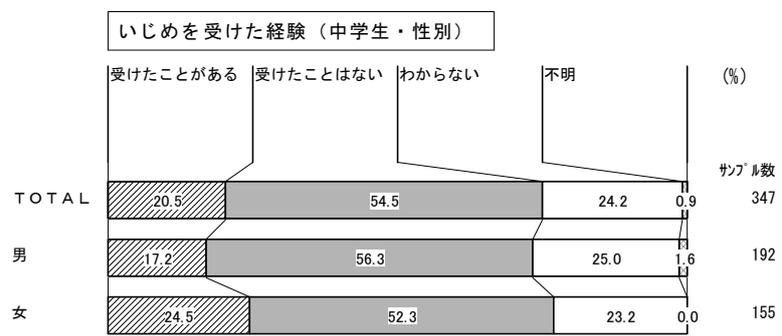


学校に行きたくなくなる時の対処法（高校生・性別）

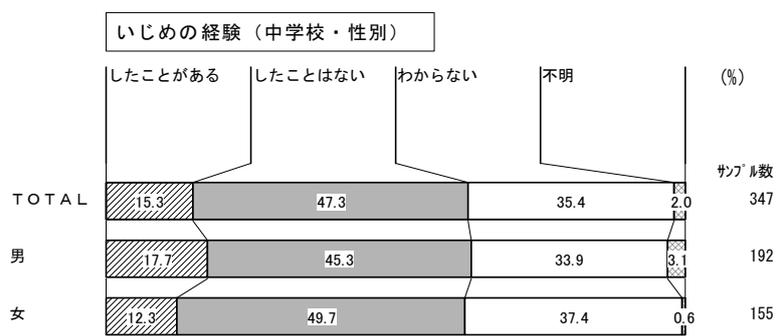


中学生でいじめを受けた経験は 20.5%、いじめをした経験は 15.3%である。

いじめ



いじめを受けたときの対処法



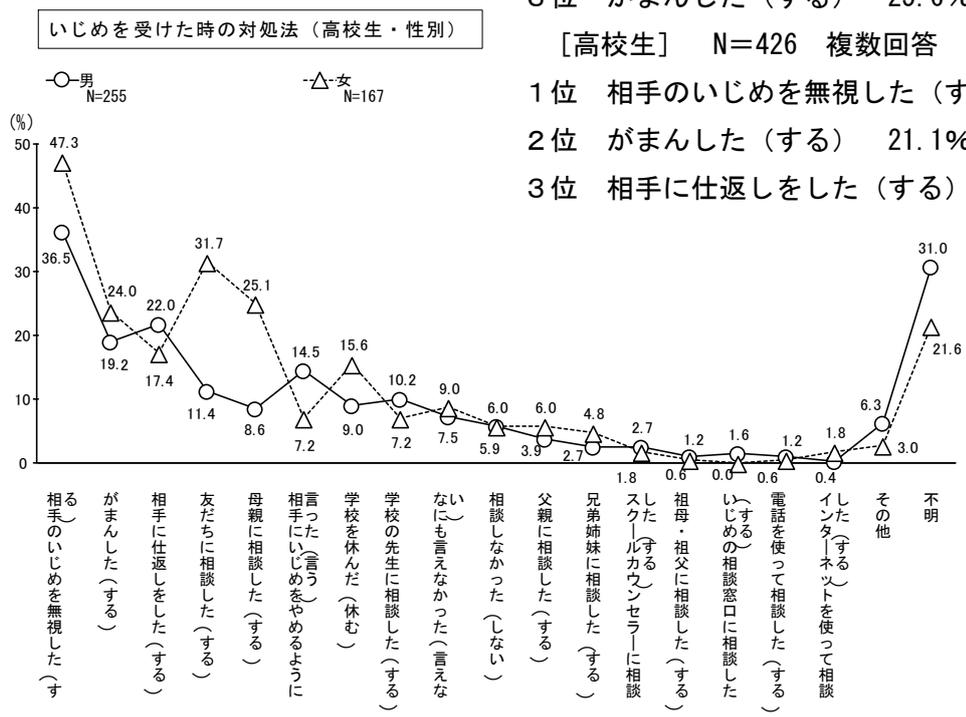
いじめを受けたときの対処法は、「相手のいじめを無視した(する)」が多い。女子生徒は「友だちに相談」「母親に相談」する割合が高い。

[中学生] N=347 複数回答

- 1位 相手のいじめを無視した(する) 52.4%
- 2位 友だちに相談した(する) 27.1%
- 3位 がまんした(する) 25.6%

[高校生] N=426 複数回答

- 1位 相手のいじめを無視した(する) 40.4%
- 2位 がまんした(する) 21.1%
- 3位 相手に仕返しをした(する) 20.0%



③就労・結婚・育児に関する意識について

大人になる上で必要なことについて中学生、高校生ともに「自分の行動に責任を持つ」が「とても必要」の割合が最も高い。

大人になる上で必要なこと

[中学生] 「とても必要」 N=347

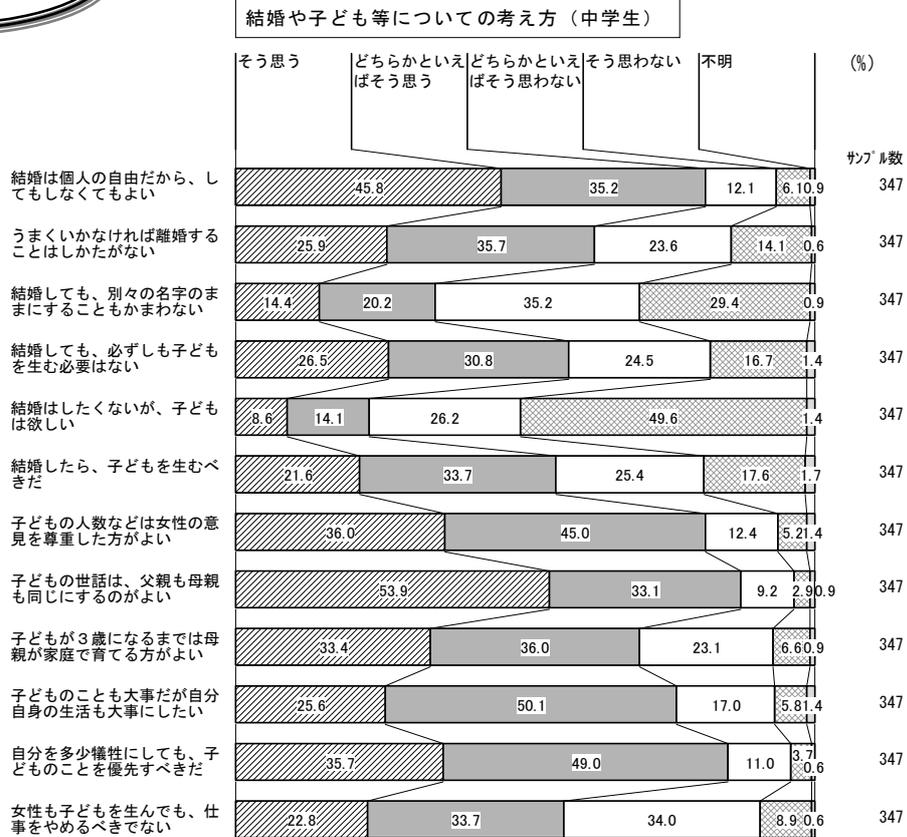
- 1位 自分の行動に責任を持つ 82.7%
- 2位 職業について経済的に自立する 76.9%
- 3位 人に迷惑をかけない 75.2%

[高校生] 「とても必要」 N=426

- 1位 自分の行動に責任を持つ 82.4%
- 2位 職業について経済的に自立する 81.9%
- 3位 他人とうまくつき合う 76.1%

結婚や子ども等についての考え方については、「子どもの世話は父親も母親も同じにする」「結婚は個人の自由」「女性の意見を尊重したほうがよい」で「そう思う」の割合が高い。

結婚、子ども等の考え方



④心配、悩みについて

心配や悩みに思うことは、中学生が「勉強のこと」、高校生は「将来や進路のこと」が多い。

心配や悩みに
思うこと

- [中学生] N=347 複数回答
- 1位 勉強のこと 68.9%
 - 2位 将来や進路のこと 62.0%
 - 3位 自分の性格やクセのこと 38.0%
- [高校生] N=426 複数回答
- 1位 将来や進路のこと 65.3%
 - 2位 自分の性格やクセのこと 48.8%
 - 3位 勉強のこと 47.7%

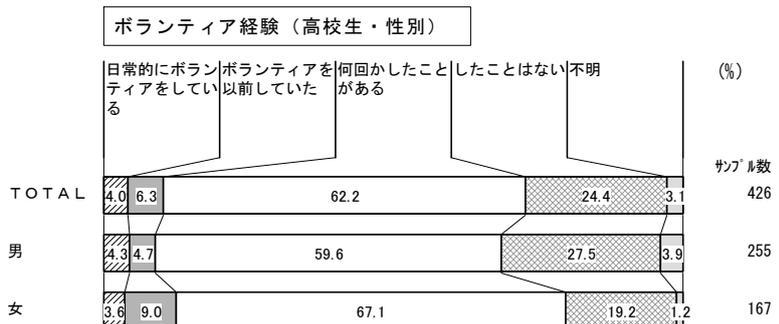
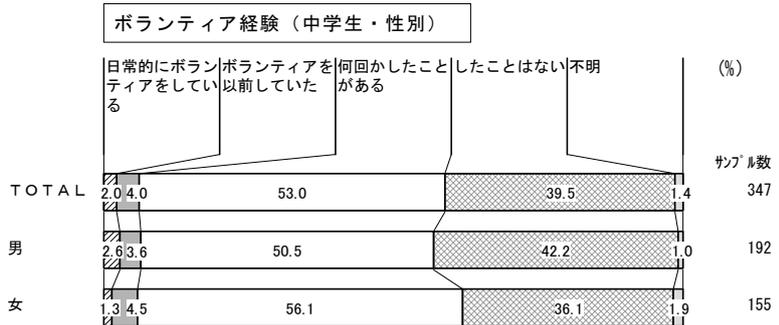
心配や悩みの相談相手は、中学生、高校生ともに「同年齢の友だち」が多い。

心配や悩みの
相談相手

- [中学生] N=347 複数回答
- 1位 同年齢の友だち 54.8%
 - 2位 母親 46.7%
 - 3位 父親 15.3%
- [高校生] N=426 複数回答
- 1位 同年齢の友だち 59.6%
 - 2位 母親 35.2%
 - 3位 年上の友だち・先輩 18.5%

⑤地域との交流について

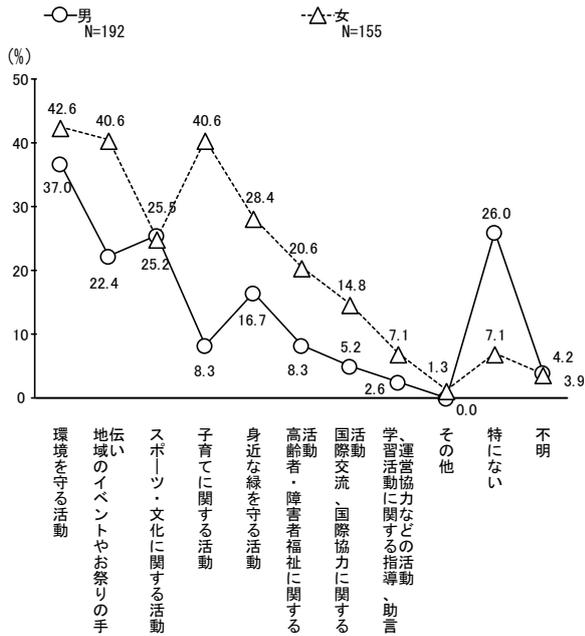
ボランティア
経験



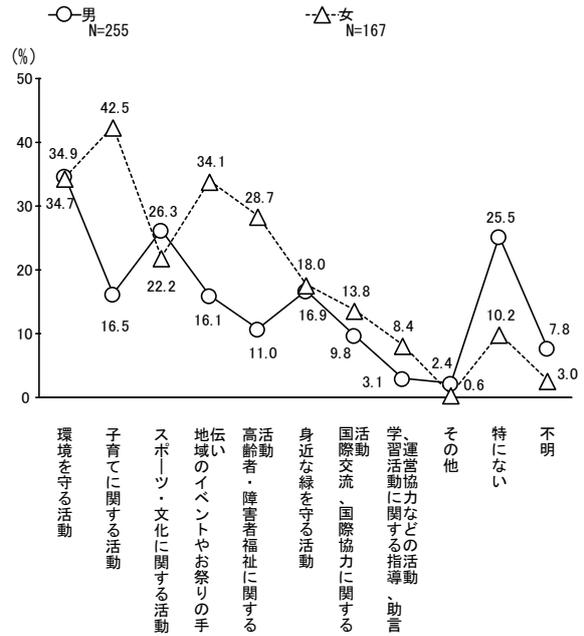
参加したいボランティア活動は「環境を守る活動」「地域のイベントやお祭りの手伝い」「子育て」が多い。「子育て」「地域のイベントやお祭りの手伝い」「高齢者・障害者福祉」など、全体的に男子生徒に比べて女子生徒の方が選んでいる項目が多い。

参加したい
ボランティア

参加したいボランティア活動（中学生・性別）



参加したいボランティア活動（高校生・性別）



⑥子どもの権利について

子どもと接するときに大人に心がけて欲しいこととして、中学生、高校生とも「きまりや約束ごとを一方的に押し付けないでほしい」が多い。

大人に心がけて欲しいこと

- [中学生] N=347 複数回答
- 1位 きまりや約束ごとを一方的に押し付けないでほしい 37.8%
 - 2位 友だちや兄弟姉妹と比べないでほしい 37.2%
 - 3位 自分のことは自分で考えて決めさせてほしい 32.3%
- [高校生] N=426 複数回答
- 1位 話をもっと真剣に聞いてほしい 37.1%
 - 2位 きまりや約束ごとを一方的に押し付けないでほしい 35.2%
 - 3位 大人が社会のルールを守ってほしい 33.1%

IV-3 独身および子どものいない世帯、子育て中および子育て終了世帯の調査結果

1. 調査仕様

	独身および子どものいない世帯	子育て中および子育て終了世帯
①調査地域	区内	区内
②調査対象	区内に居住する独身および子どものいない世帯	区内に居住する子育て中世帯（13歳から18歳の末子のいる世帯）および子育て終了世帯（50歳から65歳の夫婦のみの世帯）
③標本数	500件（各250件）	500件（各250件）
④抽出方法	住民基本台帳から調査対象の条件をかけて抽出	住民基本台帳から調査対象の条件をかけて抽出
⑤調査方法	郵送配付、郵送回収	郵送配付、郵送回収
⑥調査期間	平成21年2月27日～3月13日	平成21年2月27日～3月13日
⑦回収数 ・回収率	153件 有効回答率=30.6%	284件 有効回答率=56.8%

2. 調査結果の概要

①家族の状況

家族数の平均は独身および子どものいない世帯が1.8人、子育て中および子育て終了世帯が3.2人である。

②将来の不安、結婚について

独身および子どものいない世帯では「仕事」「生活費」「健康」の順に不安があるとする回答が多く、子育て中および子育て終了世帯では「健康」「老後」「生活費」の順に不安があるとする回答が多い。

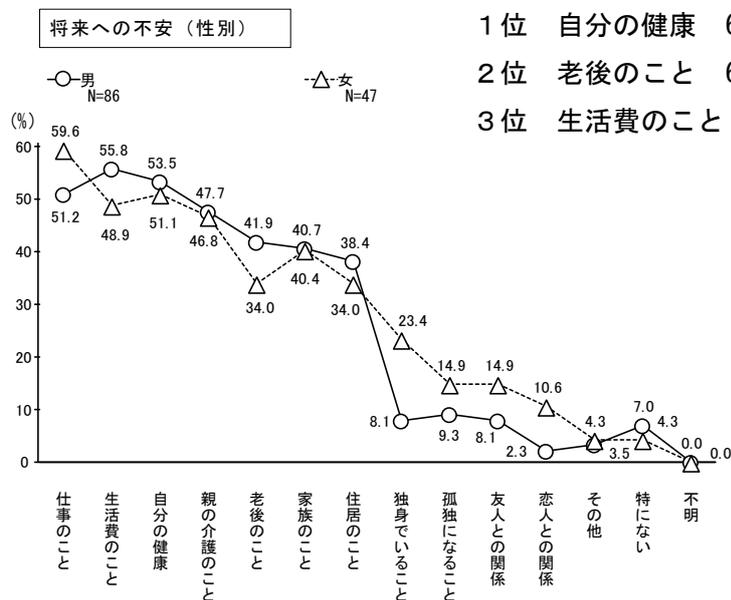
将来への不安

[独身および子どものいない世帯] N=153 複数回答

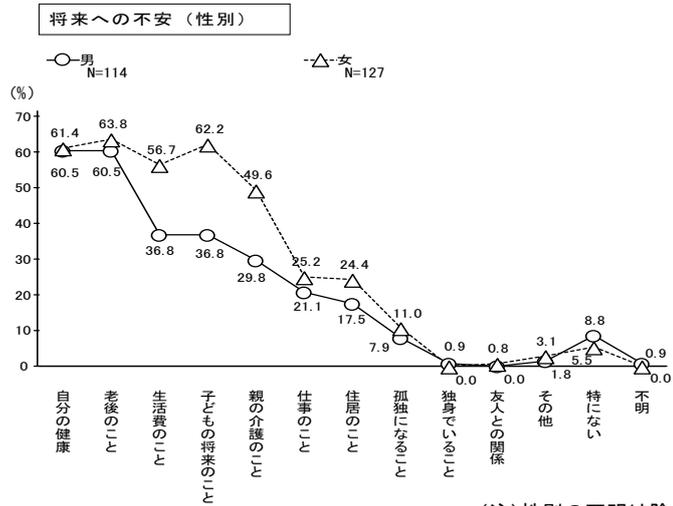
- 1位 仕事のこと 54.9%
- 2位 生活費のこと 53.6%
- 3位 自分の健康 51.0%

[子育て中および子育て終了世帯] N=284 複数回答

- 1位 自分の健康 62.7%
- 2位 老後のこと 60.9%
- 3位 生活費のこと 45.4%



(注)性別の不明は除く



独身および子どものいない世帯では「エイズに対する知識」「個人の自由」「男女協働」への意識が高く、子育て中および子育て終了世帯では「エイズに対する知識」「女性の意見の尊重」「母親による育児」への意識が高い。

※設問の各項目に対して「そう思う」×100、「どちらかといえばそう思う」×67、「どちらかといえばそう思わない」×33、「そう思わない」×0のようにウェイト付け（得点化）を行った。

結婚や子育ての考え

[独身および子どものいない世帯] N=153 複数回答

- 1位 エイズなどに対する知識 94.5 ポイント
- 2位 結婚は個人の自由 83.3 ポイント
- 3位 子どもの世話の男女協働 他 83.3 ポイント

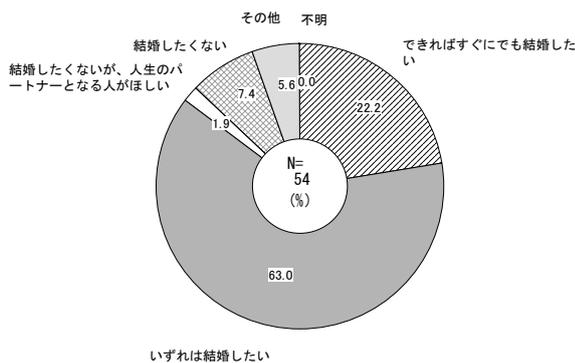
[子育て中および子育て終了世帯] N=284 複数回答

- 1位 エイズなどに対する知識 97.2 ポイント
- 2位 子どもの人数などでの女性の意見尊重 75.7 ポイント
- 3位 3歳までは母親による家庭育児 72.6 ポイント

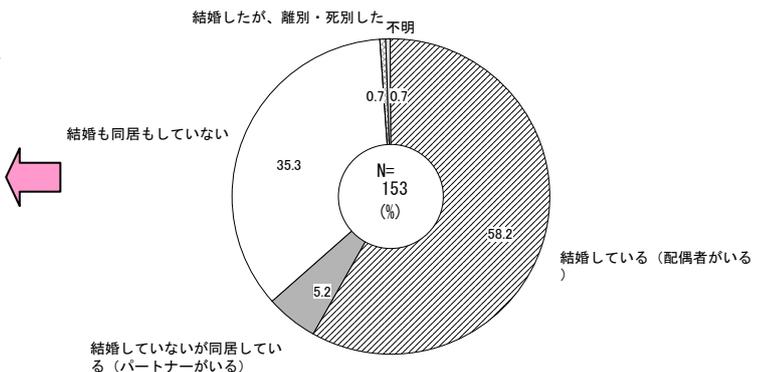
独身および子どものいない世帯で「結婚も同居もしていない」は 33.0%となっており、結婚も同居もしていない理由としては、「適当な相手にめぐり会えないから」と回答している。

結婚の有無とその考え

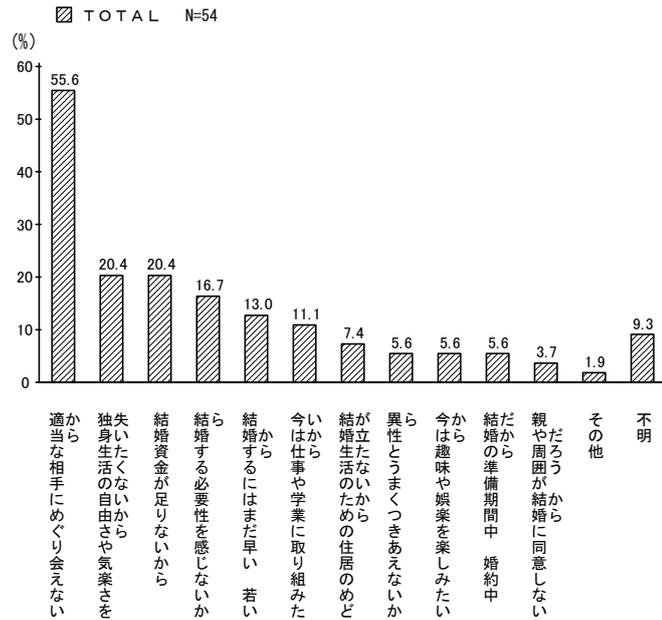
独身及び子どものいない世帯 結婚に関する考え



独身及び子どものいない世帯 結婚の有無



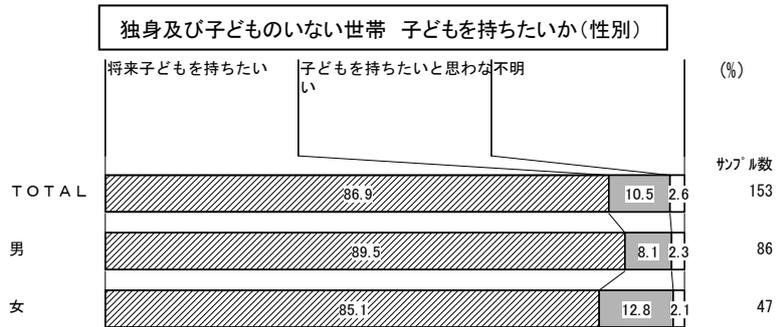
独身及び子どものいない世帯 結婚も同居もしていない理由



③子育てについて

独身および子どものいない世帯で 86.9%は「子どもを持ちたい」と回答している。

子どもを持ちたいか



(注) 表側の性別の「不明」は除く。

独身および子どものいない世帯で 63.2%は子どもを持ちたい理由で「家族の結びつきが強くなるから」と回答している。

子どもを持ちたい、持ちたくない理由

[子どもを持ちたい理由] N=133 複数回答

- 1位 家族の結びつきが強くなるから 63.2%
- 2位 子どもを通じて交流が広がるから 48.9%
- 3位 子どもがいると家庭が明るくなるから 46.6%

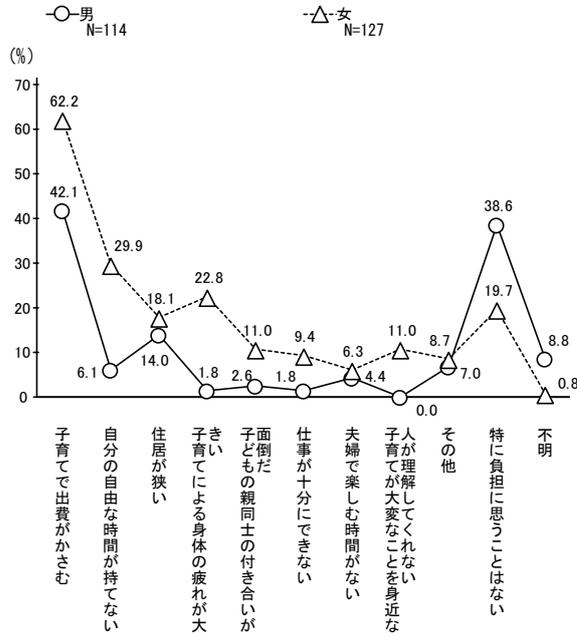
[子どもを持ちたくない理由] N=16 複数回答

- 1位 子育ての経済的負担に耐えられないと思う 37.5%
- 2位 自分の生活をエンジョイしたいから 25.0%
- 3位 子育てはめんどくさいから 他 18.8%

子育て中および子育て終了世帯で子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいることは「子育てで出費がかさむ」が49.6%で、全体的に女性の負担意識や悩みが大きい。

子育ての負担
や悩み

子育て中及び子育て終了世帯
子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいること(性別)



(注)性別の不明は除く

子どものこと
での心配等

[男性] N=114 複数回答

- 1位 交通事故に遭わないかどうか心配なこと 36.8%
- 2位 病気や発育・発達に関すること 35.1%
- 3位 犯罪に巻き込まれないかどうか心配なこと 24.6%

[女性] N=127 複数回答

- 1位 犯罪に巻き込まれないかどうか心配なこと 50.4%
- 2位 交通事故に遭わないかどうか心配なこと 40.9%
- 2位 友だちづきあいに関すること 40.9%

子育て中および子育て終了世帯で仕事と子育てとの両立で大変だと感じていることとしては、男女ともに「自分が病気などの時に代わりがない」「子どもと接する時間が少ない」が多い。

仕事と子育ての
両立で大変なこと

[男性] N=38 複数回答

- 1位 子どもと接する時間が少ない 42.1%
- 2位 自分が病気などの時に代わりがない 36.8%
- 3位 勤務時間が長い 他 28.9%

[女性] N=63 複数回答

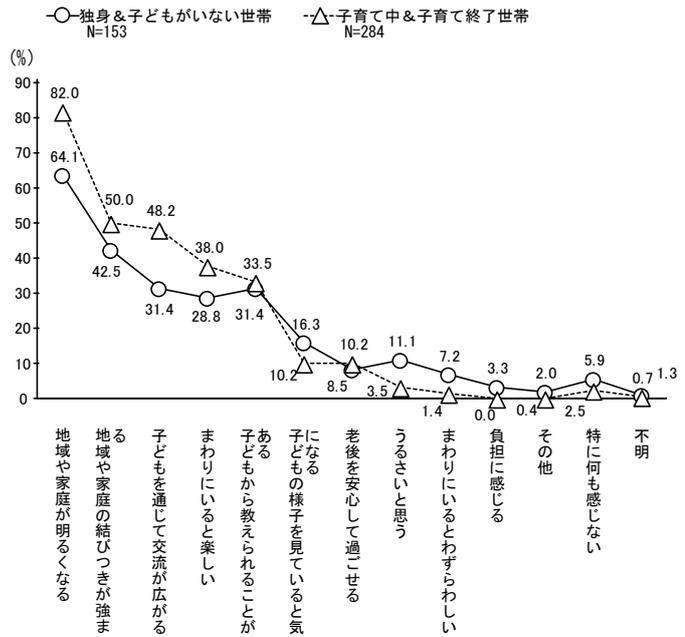
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 60.3%
- 2位 子どもと接する時間が少ない 31.7%
- 3位 急な残業が入ってしまう 25.4%

④地域交流について

自分の周りにいる子どもへの意識については、独身および子どものいない世帯、子育て中および子育て終了世帯ともに「地域や家庭が明るくなる」が多い(複数回答)。

周りの子どもへの意識

自分の周りにいる子どもへの意識 (区民タイプ比較)



参加したいボランティア活動は、独身および子どものいない世帯、子育て中および子育て終了世帯ともに「環境を守る活動」が多い。(複数回答)。

参加したいボランティア活動

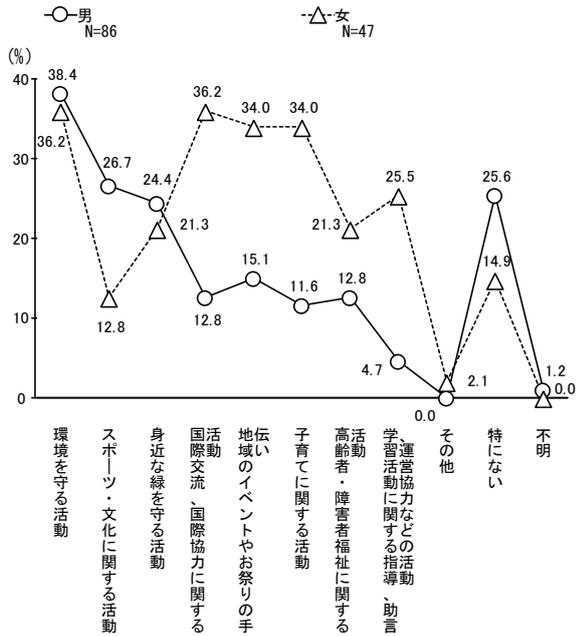
[独身および子どものいない世帯] N=153 複数回答

- 1位 環境を守る活動 35.3%
- 2位 スポーツ・文化に関する活動 22.9%
- 3位 特にない 22.2%

[子育て中および子育て終了世帯] N=284 複数回答

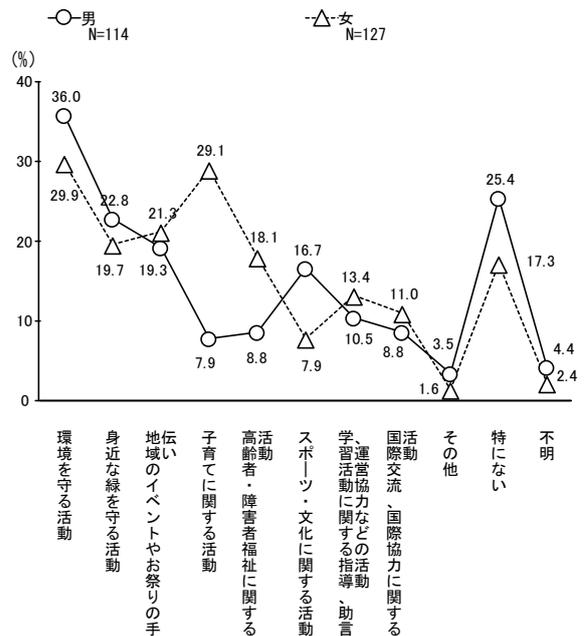
- 1位 環境を守る活動 31.3%
- 2位 身近な緑を守る活動 22.2%
- 3位 特にない 21.5%

独身及び子どものいない世帯
参加したいボランティア活動(性別)



(注)性別の不明は除く

子育て中および子育て終了世帯
参加したいボランティア活動(性別)



(注)性別の不明は除く

⑤行政サービスへの要望について

独身および子どものいない世帯、子育て中および子育て終了世帯ともに、「子育て費用負担の軽減に関する要望」が多い。

行政サービスへの要望

[独身および子どものいない世帯] N=153 複数回答

- 1位 子どもの出産等にかかる医療費の負担軽減 60.8%
- 2位 保育園等の費用や教育費の負担軽減 60.1%
- 3位 保育サービスや施設の整備 49.0%

[子育て中および子育て終了世帯] N=284 複数回答

- 1位 子どもの出産等にかかる医療費の負担軽減 43.3%
- 2位 保育園等の費用や教育費の負担軽減 41.9%
- 3位 保育サービスや施設の整備 38.4%

IV-4 子育て施設従事者の調査結果

1. 調査仕様

子育て関係施設従事者	
①調査地域	区内
②調査対象	区内の子育て関係施設の従事者
③標本数	510件
④抽出方法	施設の種類別に従業者数などを勘案し48施設抽出
⑤調査方法	施設を経由して配付、回収
⑥調査期間	平成21年1月26日～2月10日
⑦回収数 ・回収率	493件 有効回答率=96.7%

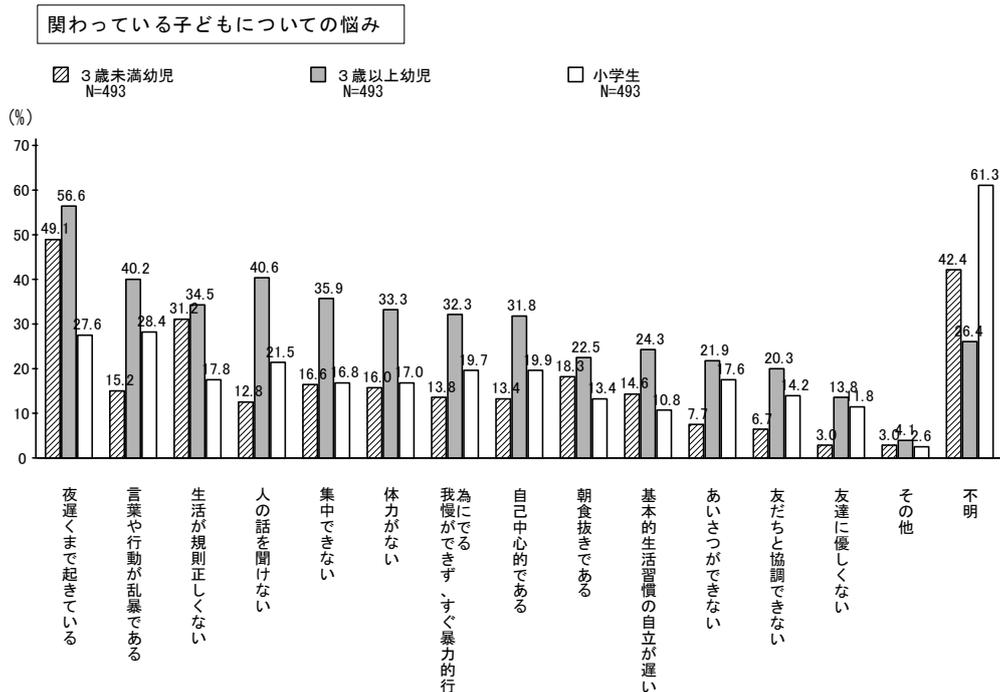
2. 調査結果の概要

①施設従事者のプロフィール

回答者の73.2%が女性で、年代別の人数は30歳未満から50歳代までほぼ同数である。「保育士」が約1/2、「幼稚園教諭」が約1/4を占めている。

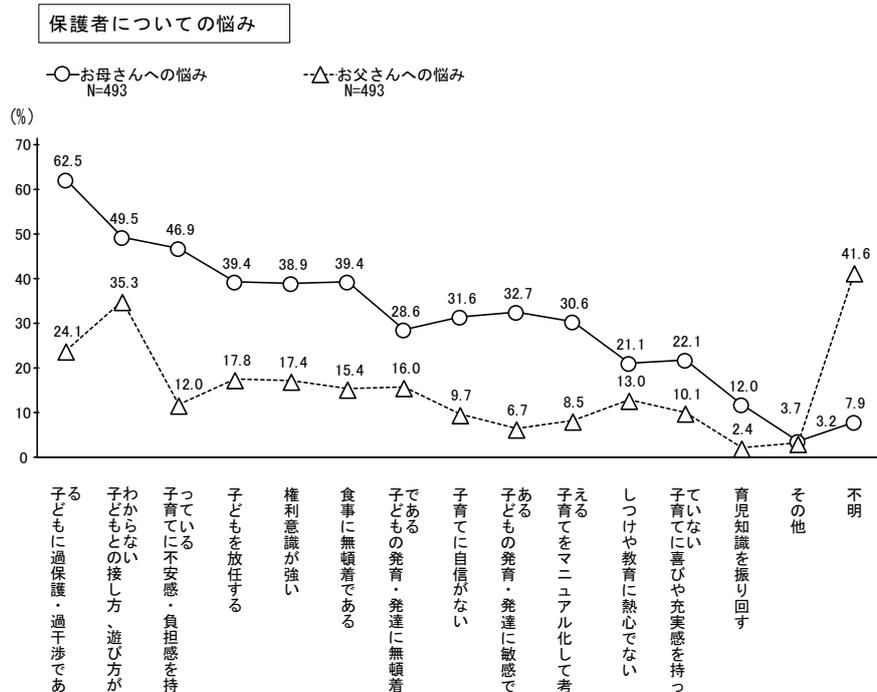
②子育て支援に関する悩み、不安等について

子どもに対する悩みについては、「3歳未満幼児」「3歳以上幼児」については「夜遅くまで起きている」、「小学校」については「言葉や行動が乱暴である」が多い。



保護者に対する悩みについては、「子どもに過保護、過干渉である」を筆頭に「お母さん」に対するものが多い。

保護者に対する悩み



保護者との連携で重視していることについては、「登園・降園時、来所時の連絡」「連絡帳」が多い。

重視している家庭・保護者との連携内容

N=493 複数回答

- 1位 登園・降園時、来所時の連絡 67.1%
- 2位 連絡帳 63.1%
- 3位 保護者会 32.9%

③子育てに関する情報、相談の状況について

子育て情報の入手方法については、「職場内の同僚」「テレビ、ラジオ、新聞」が多い。

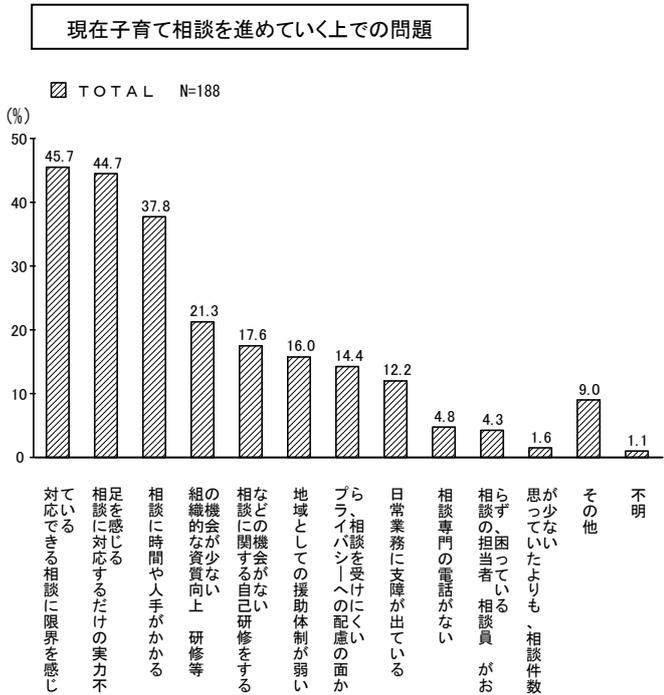
子育て情報の入手方法

N=493 複数回答

- 1位 職場内の同僚 77.5%
- 2位 テレビ、ラジオ、新聞 60.2%
- 3位 乳幼児の保育・育児に関する市販の雑誌 47.7%

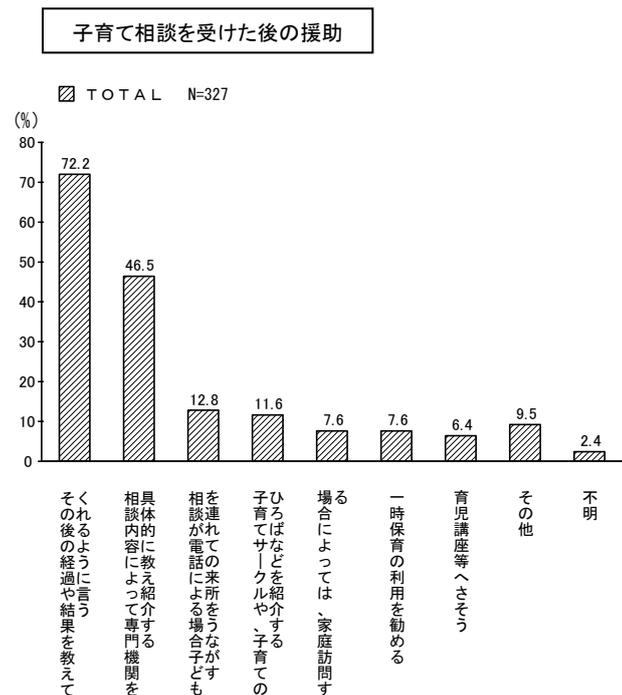
子育て相談を進めていく上で、現在直面している問題については、「対応できる相談に限界を感じている」「相談に対応するだけの實力不足を感じる」が多い。

子育て相談で
直面している
問題



相談後の援助については、「(依頼者に)その後の経過や結果を教えてください」「相談内容によって専門機関を紹介する」が多い。

子育て相談を受けた後の援助



④子育て支援に関する連携、協力、虐待の状況について

連携・協力の内容は「困ったことがあったとき相談している」が 70.8%で最も多い。

他団体との連携・協力内容

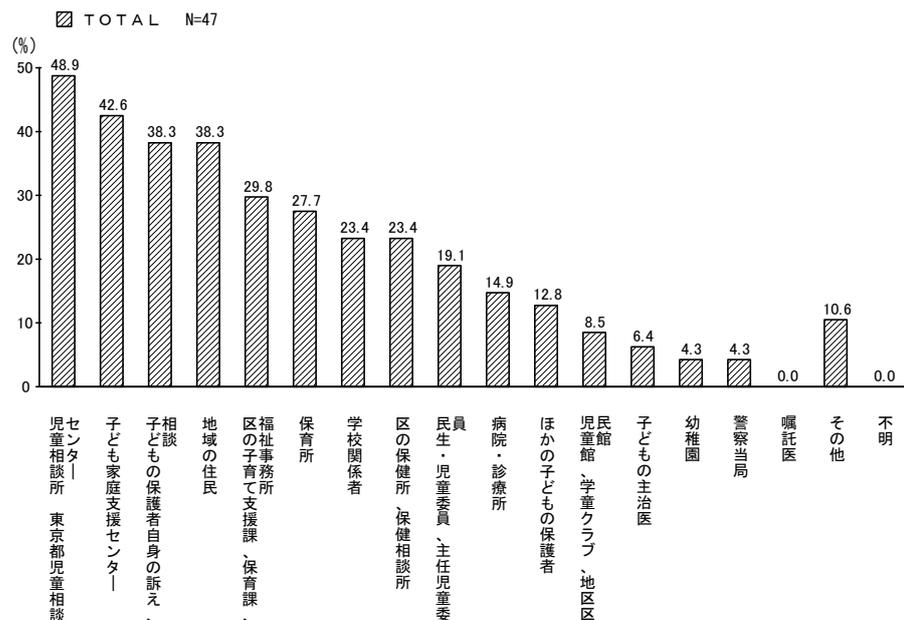
N=274 複数回答

- 1位 困ったことがあったとき相談している 70.8%
- 2位 日常的な情報交換を行っている 26.3%
- 3位 地域の子育て支援者が集まって会合 13.5%

虐待を判断する際の情報については「児童相談所(東京都児童相談センター)」が 48.9%で最も多い。

虐待を判断する際の情報

虐待の判断情報入手先



行政が力を入れていくといいと思う子育て支援内容については、「子育ての相談や情報が得られる場の充実」が 74.2%で最も多い。

力を入れていくといいと思う子育て支援内容

N=493 複数回答

- 1位 子育てに困ったときに相談等の場の充実 74.2%
- 2位 事業者に対して職場環境の改善 53.5%
- 3位 犯罪に巻き込まれないよう防犯対策の強化 42.0%

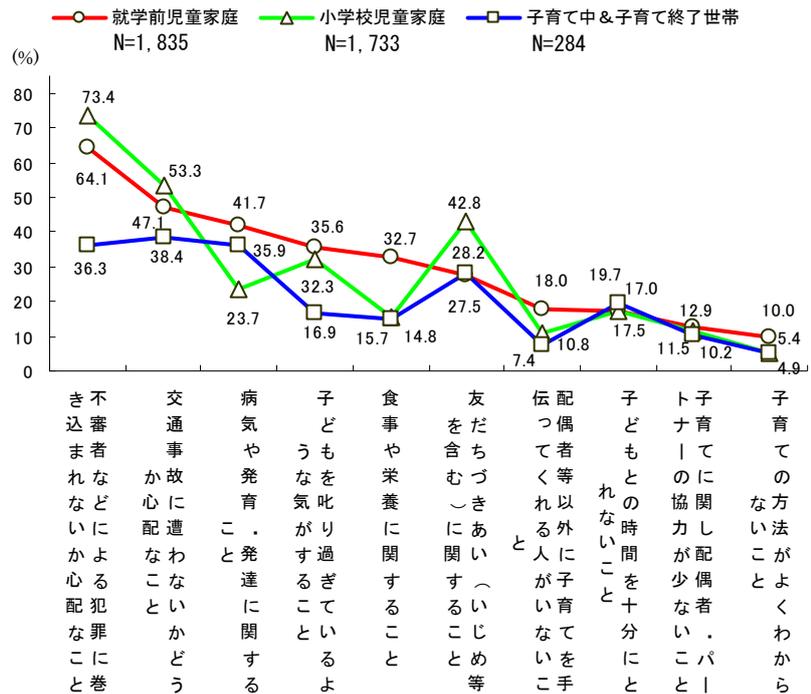
Ⅳ-5 子育て意識の変遷と子育てに関する意識の比較

①子育て意識の変遷について

子どものことでの心配、気になることについては、いずれの子育て家庭でも「犯罪に巻き込まれないか」「交通事故に遭わないか」の割合が高く、特に小学校児童家庭では顕著である。結婚や子育てに関する考え方については、独身&子どもがいない世帯と高校生がほぼ同様の傾向である。

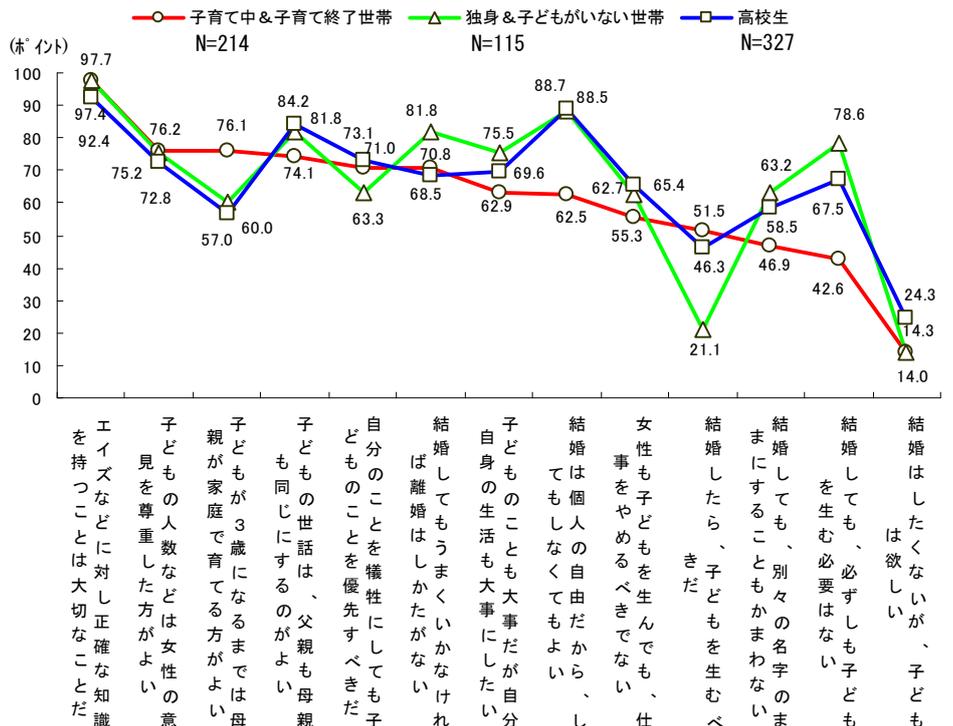
子どものことでの心配等

子どものことでの心配、気になること（上位10項目）



結婚や子育ての考え方

結婚や子育てに関する考え方

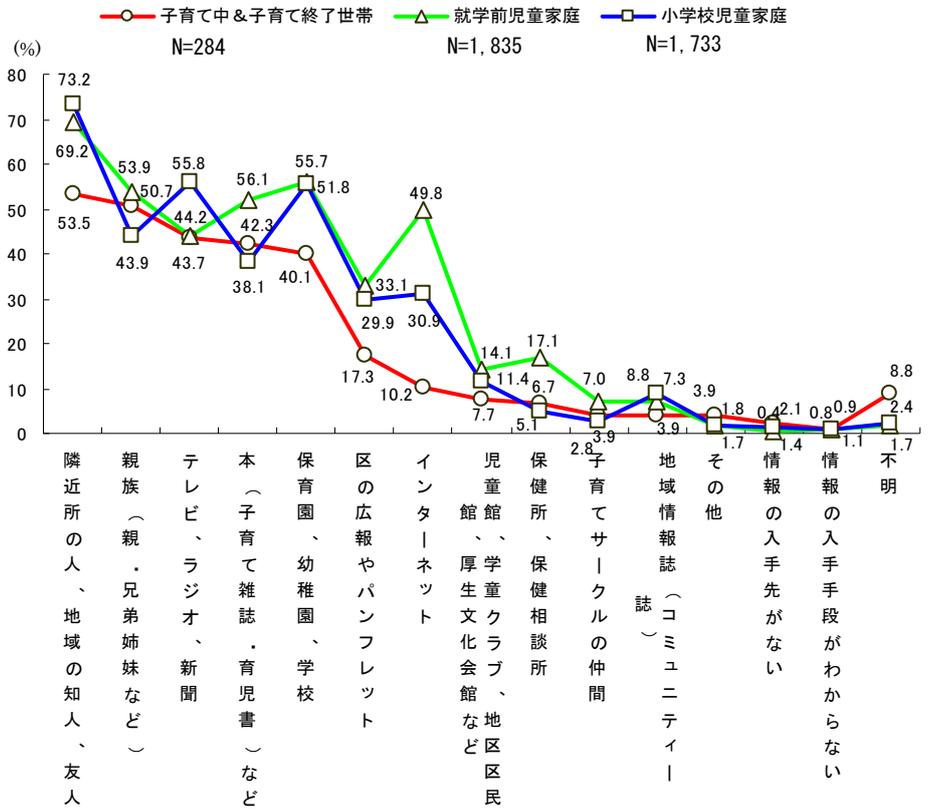


※設問の各項目に対して「そう思う」×100、「どちらかといえばそう思う」×67、「どちらかといえばそう思わない」×33、「そう思わない」×0のようにウェイト付け（得点化）を行った。

子育てに関する情報入手先については、子育て中および子育て終了世帯では「親族(親・兄弟姉妹)」や「テレビ、ラジオ、新聞」が多いが、就学前児童家庭では「保育園、幼稚園、学校」や「インターネット」も多い。子育てに関する不安・悩みの相談相手については、いずれの子育て家庭でも「配偶者・パートナー」が最も多い。

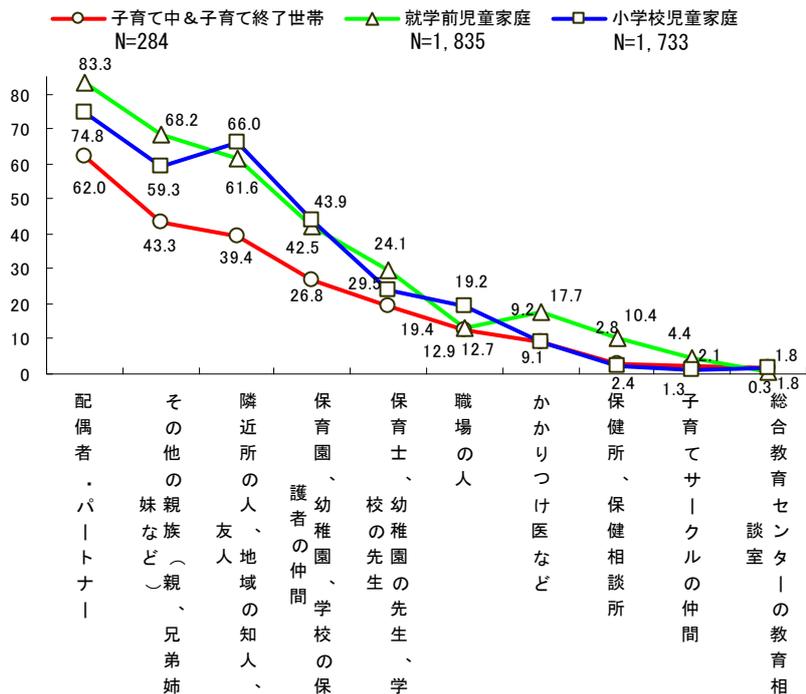
子育てに関する情報入手先

子育てに関する情報入手先



不安・悩みの相談相手

子育てに関する不安・悩みの相談相手(上位10項目)



②子育てに関する意識の比較について

子育てに関する情報入手先については、施設従事者では「保育園、幼稚園、学校」が多く、就学前および小学校児童家庭では「隣近所の人、地域の知人、友人」が多い。

子育てに関する不安・悩みの相談相手についての意識は、施設従事者が「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」や「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が多く、就学前児童家庭では「配偶者・パートナー」や「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」が多い。

子育てに関する情報入手先

※意識の差が大きいもの

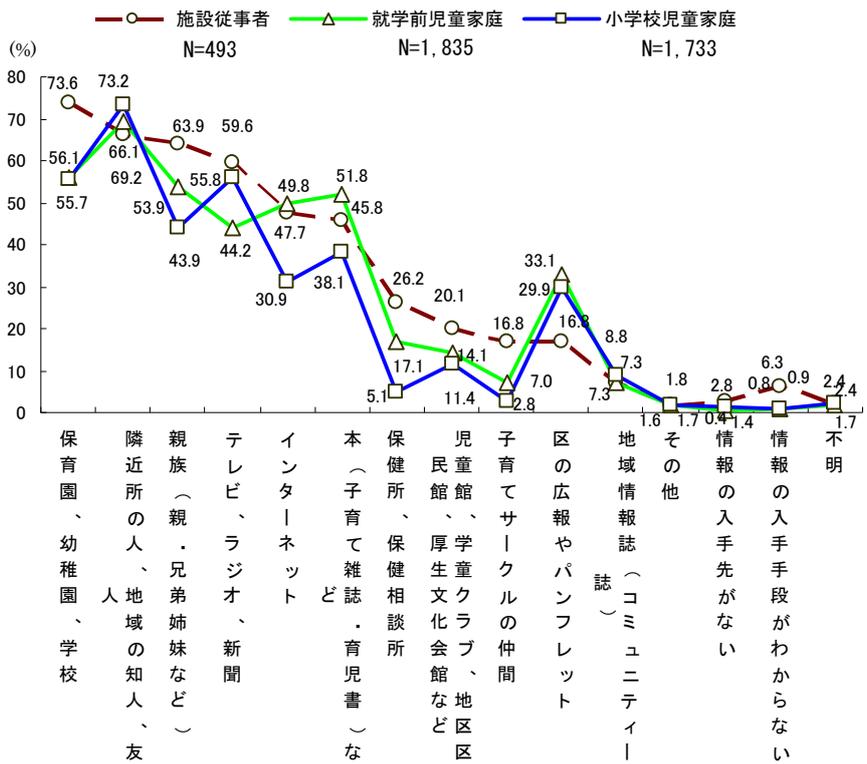
①施設従事者と就学前児童家庭

- 1位 保育園、幼稚園、学校 17.5%差
- 2位 区の広報やパンフレット -16.3%差
- 3位 テレビ、ラジオ、新聞 15.4%差

②施設従事者と小学校児童家庭

- 1位 保健所、保健相談所 21.1%差
- 2位 親族(親・兄弟姉妹など) 20.0%差
- 3位 保育園、幼稚園、学校 17.9%差

子育てに関する情報入手先



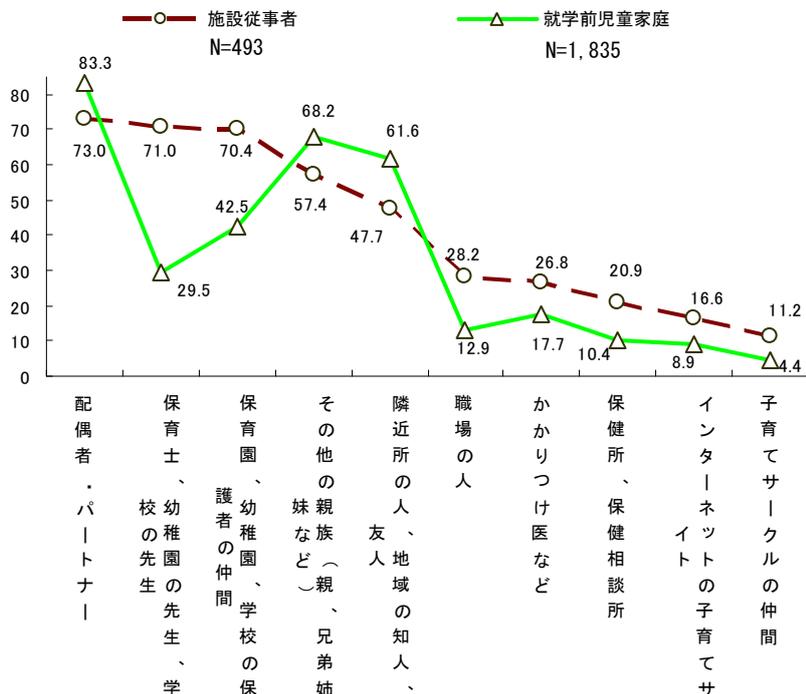
不安・悩みの相談相手

※意識の差が大きいもの

施設従事者と就学前児童家庭

- 1位 保育士、幼稚園の先生、学校の先生 41.5%差
- 2位 保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間 27.9%差
- 3位 職場の人 15.3%差

子育てに関する不安・悩みの相談相手



就学前児童家庭が要望する子育て支援サービスと、施設従事者が力を入れていくといいと思う子育て支援サービスについては、施設従事者が「子育てに困った時に相談等の場の充実」や「事業者に対して職場環境の改善の働き」と認識している一方、就学前児童家庭では「犯罪に巻き込まれないよう防犯対策の強化」や「子連れでも出かけやすく楽しめる場所の充実」そして「保育園や幼稚園にかかる費用負担の軽減」などとなっている。

子育て支援要望&重点意識

※意識の差が大きいもの(上位5位まで)

施設従事者と就学前児童家庭

1位	子育てに困った時に相談したりする場を作って欲しい	54.5%差
2位	犯罪に巻き込まれないよう防犯対策の強化	-29.3%差
2位	交通事故に遭わないよう、交通安全対策の強化	-29.3%差
4位	子育てについて学べる機会の充実	28.3%差
5位	保育園や幼稚園にかかる費用負担の軽減	-28.0%差

子育て支援要望 vs 行政が力を入れていくといいと思う子育て支援内容

